

近世人の世帯道具

——信州更級郡岡田村寺澤直興筆『世帯道具覚』の世界——

若尾 政希

日本近世は、日本列島上ではじめて商業出版が成立し、版本と写本とが流通し読まれ書写された時代である。書物の登場とその普及は、一七世紀から現代までを「書物の時代」とひとくくりにできるほどの大きな変革であった。いったい、なぜ一七世紀に商業出版が成立したのか。書物が、領主層から民間までに急速に流通・普及したのはなぜか、書物・出版が媒介する知（知恵・知識）は、どのような歴史的役割を果たしたのか。このような「書物・出版」と「社会」との相互の関係の様相については、いまだ十分に明らかになっていない。筆者は、こういった問題を追究する研究を「書物・出版と社会変容」研究と呼び、古代・中世から近現代までを射程に入れて、日本における書物・出版文化の歴史的位置を総合的に研究していき

たいと考えている。

もちろんこのような研究は容易ではなく、日本各地で眠っている史料を掘り起こす地道な作業から始めねばならない。本稿では、信濃国更級郡岡田村、いまの長野市篠ノ井岡田に居住した寺澤直興（宝暦一年（一七五一）～天保二年（一八一三））が書き留めた『世帯道具覚』を紹介し、その世界にご招待したい。

岡田村は、上田藩松平氏が領した川中島飛地にあり、享保一五年（一七三〇）岡田村明細帳によれば、村高一三三四石、家数一八七軒、人数八八五人である。⁹⁾ 寺澤家は、近世を通じて代々この村に居住し、その持ち高は、直興の父道孝（享保六年（一七二二）～明和七年（一七七〇））が家督を相続した延享三年（一七四六）時点で四〇石四斗

程であった。二〇歳の直興が家を相続した明和七年には四七石余であり、一部を手作するとともに、小作地経営を主な収入源とする上層農民であった。⁶⁾

筆者は、この直興について考察したことがあるが⁷⁾、直興という人物の面白さは、——「文人」とか「思想家」という呼称で直興を呼ぶのは、似つかわしくない——徹底した生活者であるという点にある。直興の関心の中核を占めたのは、寺澤の家をどう盛り立て維持するのか、ということであった。今日では、直興が著した農書『農業耕作万覚帳』が活字に翻刻され、『日本農書全集39 地域農書4』⁴⁾等に収載されており、直興の名前はよく知られている。しかし当代では直興は、まったくの無名であった。直興に農書執筆を思い立たせたのは、家存統の危機意識であった。文政五年（一八二二）正月、跡を譲った息子直宥^{なほろ}が病の床につき回復の見込めない状況⁵⁾で、七二歳の直興が一七歳の孫慶十郎に向けて農事の実務を書き記したのが、この書物である。事実、全一五丁の短いこの農書は、寺澤家文書中に一部だけ現存し、家を越えて出回った形跡はないのである。徹底した生活者であるが故に、筆者は直興に惹かれる。直興の思想形成がどの

ようなものであったか、その歴史的位置を見定めることによつて、一八〇九世紀を生きた人物の一つの典型を捉えることができるのではないかと。

直興は蔵書を形成し、『書物目録』を執筆している。寺澤家の旧蔵史料を一括して収蔵する長野県立歴史館の寺澤家文書⁶⁾中の、『書物目録』は、版本については冊数を、写本については冊数と書写した者の名前を記した簡素な目録である。そこには——前掲拙稿「書物の思想史」研究序説」であきらかにしたように——全部で一一八部（四八六冊）の書名が挙がつており、内訳は、版行された書物（版本）八四部（四四一冊）、写本が三四部（四五冊）であった。ちなみに、版本と写本の比率は、冊数で比べると九対一で、写本は十分の一に過ぎない。だが、部数で比べると七対三で、全体の三割が写本である。興味深いのは、写本三四部のうち二五部が直興自身の書写⁷⁾であり、書物を自ら書写してまで所有しようとした直興の意識が気になる。しかし、残念なことに版本・写本をふくめて、蔵書の大部分は寺澤家文書には現存しておらず⁸⁾、蔵書を一つひとつ手にとつて分析するような研究を行うことはできない。

このような史料上の限界があるものの、寺澤家文書には、魅力的な史料がいくつもある。本稿で紹介する『世帯道具覚』（寺澤家文書一〇二）もその一つである。

まず体裁について。書型は、タテ一三九ミリ、ヨコ一八八ミリの横本で、全一冊。装丁は、料紙を二つに折り、次にその折目を下端にして二つに折ったものを一枚重ね一括りとする。それを五括り重ね、その折り目の部分に穴を開け糸で綴じ、表紙を付けて一冊に仕立てた本（双葉列帖装本）である。丁数は、一括り二二丁（一一×二）で、それが五括りあるから全部で一〇〇丁（二二×五）からなる。表紙には、まん中に「世帯道具覚」という書名、その両脇に「天明元辛丑歳」、「正月大吉祥日」という年記がある。裏表紙には、「川中島岡田邸 寺澤氏直興」と署名がある。60丁表まで墨付きで、以下五〇丁半の余白がある。⁹⁾

内容は、たとえば「明和七年庚寅年」に「赤銅金打交表銀鐔 壹枚」を、「代金貳両」で「善光寺堺屋弥右衛門殿」から購入したというように、購入時期・物品名・代金・購入先・駄賃等を記している。表紙に天明元年（一七八一）の年記はあるが、実際には明和七年（一七七〇）か

ら天保元年（一八三〇）まで六一年間の「世帯道具」の入手・購入情報を記載したもので、全部で四九五件の記事がある。

ちなみに「世帯道具」とは、「一家を構えて生活するための道具」（『日本国語大辞典第二版』）のことで、『西鶴織留』や『好色一代男』等に用例がある言葉である。『世帯道具覚』には部類分けはなされていないが、おおむね①刀剣・武器類、②椀や重箱等の調度や文房具、③書物、④書画・屏風・掛け軸等の四つに分けることができる。②調度はともかく、他の三つ、とりわけ書物を「世帯道具」と認識した直興の意識は興味深い。

なお、①刀剣・武器類の収集について、一言しておかねばならない。農民である直興がなぜ刀剣を購入するのか。実は、直興は「金五拾両 安永五申年十二月於御会所、御内用被仰付、同日苗字帯刀御免。安永六酉年九月庄屋格被仰付」¹⁰⁾と、安永五年（一七七六）に上田藩「領主松平伊賀守様」に五〇両もの献金をして、翌年、見返りに苗字帯刀御免と「庄屋格」の称号をもらっている。ただし、それ以前の明和七年と安永三年にも、鐔や脇指などの刀剣類を購入していることから、もともと収集癖

があり、帯刀御免はそれに拍車をかけたといえるかもしれない。

本稿では、この『世帯道具覚』一冊すべてを翻刻した。慣例にならない、まずは凡例を記しておこう。

(1) 丁数は、一二丁の表を(2丁才)、同裏を(2丁ウ)と表記することとする。

(2) 「二」^{ひつがき}の上の数字は原文にはない。翻刻者が便宜上、1から495まで順に振ったものである。

(3) 翻刻にあたっては、改行や文字の大きさ等、原文の体裁にできるかぎり倣うこととした。

(4) 原文にある振り仮名については、そのまま翻刻した。

(5) 誤字等で意味がとれない箇所では、(ママ)と記載した。

(6) 漢字の表記は、旧字・本字ではなく、常用の字体に改めた。

(7) 解説できない箇所は、■で表記した。また江戸時代の世帯道具に関する翻刻者の理解が十分でなく、誤読もあると思う。御批正をお願いしたい。

ところで、本稿の末尾に、『世帯道具覚』から二つの表

を作成した。まず表1は、物品をあえて右の四つに分類し、購入年別に表にしたものである。参考のため、寺澤直興の年齢(数え)と略歴を併記した。なお、④書画・屏風・掛け軸等について、それを購入したり表装したりした年月日の記載がないものが二十三件ある。その場合には、便宜的に、その前後の番号の年の備考欄に記入した。

この表の横欄をみていくと、たとえば明和七年(一七七〇)庚寅の欄には、父の死没で家督を相続した二十歳^{はたち}の直興は、①刀剣・武器類を3点を金三兩二分で、③書物(具体的には『太閤記』と、おそらくこの年に購入したであろう『東鑑』をあわせれば)を金三分五匁で、購入したことがわかる。安永二年には書物のみを購入している。安永五年は刀剣のみ購入している。あるいは明和八年や安永八年のように、何も購入していない年もあるというように、それぞれの年に、どのような世帯道具をいくらで購入したかをチェックすることができる。

一方、表の縦欄をみていくと、たとえば①刀剣・武器類の欄では、直興がいつ刀剣・武器類を購入したのかみることができている。②以下も同様である。

さらに物品の頭につけた番号に着目すると、明和七年の①刀剣・武具類の欄に、1〜3が並んでいるが、4〜6は一六年後の天明六年の欄にあり、必ずしも年月日順になっていないことがわかる。ここからわかることは、直興が年ごとにその都度、この帳面に記帳したのではないということである。寺澤家文書には、『万日記』『万覚帳』等と題する、直興が毎年の収支を記した帳面が残っていることから、これらに依拠しながら、後年、世帯道具を列挙したと推定されるのである。逆に言えば、『万日記』『万覚帳』の記載と比較対照することによって、本史料のデータをより精度の高いものとすることができる。今後の課題としたい。なお、直興が作成した『永代万重宝記』（寺澤家文書八二）という帳面には、「道具」として、明和七年から安永九年（一七八〇）までの購入物品を列挙するが、これは、この年代の『世帯道具覚』の記述とほぼ重なっており、その下書きとしてみなすことができる。

次の表2は、前述の『書物目録』に列挙された書物と、『世帯道具覚』に挙がっている書物のデータ（書名・冊数・購入年月日・新本古本の別・代金・購入先等）とを

対照できるように一覧表にしたものである。『世帯道具覚』に記載された書物は全部で七三部である。そのうち二部は写本『中臣祓抄』『厭蝕大平衆記』を書写して貰ったという記事であり、版本は七一部となる。これを『書物目録』所載の版本八四部と比較すると、両者ともに記載されるは六四部、『書物目録』のみに載るのは二〇部あり、逆に『世帯道具覚』にだけ載る書物も七部あることがわかる。

なお、筆者は、『世代道具覚』の書物のデータから、直興の蔵書形成の過程を分析した別稿を発表している¹¹⁾。ここでは、直興が地元信州から二八部、京都から二七部、江戸から一五部、名古屋から一部の書物を購入したことを明らかにした。また、その値段や購入先、仲介する者の存在など、書物の流通の一端を解明することができた。このように、直興がいつどのような書物を入手したのかを確定することにより、今後行うことになる、直興の思想形成の過程を丹念に追跡するための手がかりを得ることができたのである。

今後は、書物だけでなく、刀剣類や調度、また掛物や書画についても、同様の作業を行い、直興の世帯道具が

どのように形成されていったのか、直興の世帯道具の世界の全体像に迫っていくような研究が必要となる。それが、直興の思想形成を跡づけることにもつながるであろう。次の課題とすることを約束して本稿を閉じたい。

【注】

- (1) 館林弘毅「近世後期上田藩領川中島飛地における長百姓の地位―文書作成過程を通してみた場合―」（『長野県立歴史館研究紀要』7、二〇〇一）を参照。
- (2) 佐藤常雄「解題」（『日本農書全集39 地域農書4』農産漁村文化協会、一九九七）
- (3) 拙稿「『書物の思想史』研究序説―近世の上層農民の思想形成と書物―」（『一橋論叢』一三四―四、二〇〇五）
- (4) 前掲『日本農書全集39 地域農書4』所収。他に、この農書を収めたものに、『更級埴科地方誌 第三巻 近世編下』（更級埴科地方誌刊行会、一九八一）、『長野県史 近世史料編 第七巻（二）北信地方』（長野県史刊行会、一九八一）がある。
- (5) 直宥は文政五年三月二日死去。悲嘆に暮れた直興が執筆した『寺澤長藏病氣始終記』（寺澤家文書三三四）には、息子をいとおしむ親の情愛があふれている。

(6) 『長野県立歴史館収蔵文書目録5』（二〇〇六）所収の目録を参照のこと。

(7) 直興の父道孝書写が五部、息子直宥が一部。「陽泉寺法印」に「頼写貫」ったのが一部、「原田角之丞殿頼写貫」ったのが一部、記載無し一部である。

(8) 長野電波技術研究所（所長寺澤泰氏）のホームページへ <http://www.i-apple.jp/> によれば、寺澤家の「書籍類は昭和二十六年一月四日火災により焼失した」という。

(9) 詳細にいえば、一丁の表・裏は白紙で、二丁表から記載が始める。

(10) 寺澤直興が、文化四年（一八〇七）に作成し文政九年に「追書」した『寺澤氏代々記』（寺澤家文書二八〇『先祖代世記』二冊の内）による。

(11) 「近世人の蔵書形成と書物の流通―信州更級郡寺澤直興の場合―」（『日本文学』五七、二〇〇八）

【附記】

寺澤家文書の閲覧に際しては、長野県立歴史館の方々に大変お世話になりました。御礼申し上げます。

『世帯道具覚』天明元(1781)年正月 七一一一〇二

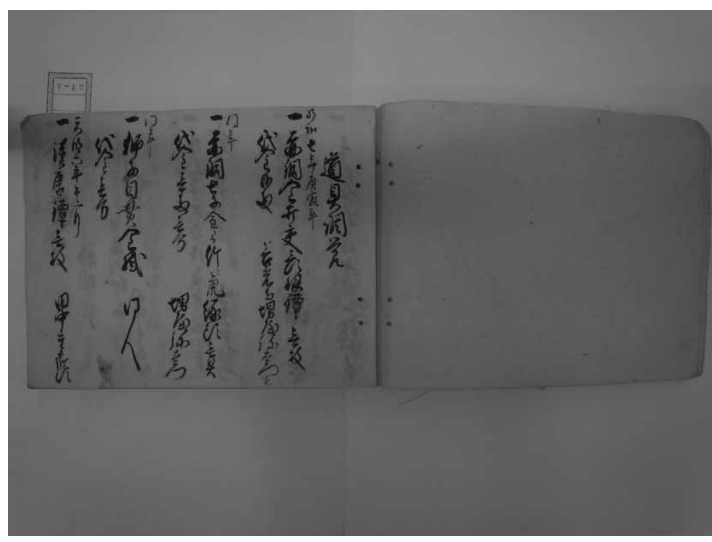
(表紙)



天明元辛丑歲
世帯道具覚
正月大吉祥日

(1丁才・ウ 白紙)

(1ウ 写真右側 白紙)



(2才 写真左側)

(2才)
道具調覚

明和七年庚寅年

- 1一 赤銅金打交表銀鐺 壹枚
代金貳両 善光寺堺屋弥右衛門殿

同年

- 2一 赤銅七子金二而竹二虎縁頭 壹具
代金壹両壹分 堺屋弥右衛門

同年

- 3一 獅子目貫金掛 同人
代金壹分

天明六年午二月

- 4一 漢唐鐺 壹枚 田中重郎治

(2ウ)

天明六年午二月

- 5一 会津鐺 壹枚
- 6一 赤銅縁頭 金二而稻穂之彫 壹具
右三品受取 赤銅獅子之鐺壹枚

遣し替申候 田中重郎治殿

安永三年午十月

- 7一 壹尺七寸大身鐺 壹本 銀金具
代金貳分貳朱 山岡田嘉右衛門

- 8一 鉄砲壹挺 長三尺 田中友之丞殿
代金三分

- 9一 壹尺九寸脇指無銘 一腰 代金三分

(3才)

- 鐺三枚赤銅から草 代金貳分
鮫壹本 代金壹分

- 赤銅桐之縁 壹ツ 代金壹分

- 四品×壹両三分 嘉右衛門

- 10一 檜六尺棒壹本 小野与五兵衛
代銀貳朱

- 11一 重箱金蒔絵四重組 但し古物

- 代金貳分

- 12一 割^{コツガハ}貝 壹本
代五匁

(3ウ)

安永五申三月

三ツ沢村

13一 式尺老寸刀 老腰 源兵衛

代金三分式朱

安永七年戊十二月

14一 銀大小一通 同人

代金三両三分式朱

午七月

15一 鉄鐘鬼鐺ツカ 一枚 善光寺後町

代金式分 桜屋藤左衛門

明和七年

16一 太閤記 七冊 古本 善光寺大門町

代金壹分

17一 東鑑 二十五冊 古本 善光寺大門町

(4才)

代金式分五匁

18一 続日本紀 古本 上田横町

代金式分

19一 唐詩撰 二冊 善光寺

代三百文

京都二而 巳之三月

20一 蒙求 三冊 新本 代四匁

21一 公家鑑 二冊 新本 代式百文

22一 頼朝三代記 四冊 古本 代式百文

23一 武家軍鑑 四冊 古本 代式百文

24一 台湾軍記タウワン 五冊 古本 代三百文

25一 四声字引 新本 一冊 代拾匁五分

26一 韻鏡 全 古本 代壹匁五分

27一 梅花心易 五冊 新本 代四匁九分

(4ウ)

京都

松本白木屋

同

同

同

同

同

同

同

28一 古文頭書 五冊 古本 代三匁

同 子二月

29一 四書理諺鈔 十冊 古本 代拾四匁

巳年 江戸

30一 民家童蒙解 五冊 新本 代四匁五分

(5才)

巳正月 尾州名古屋 古本

31一 一代書用 全 代六匁

寛政二戊十二月

32一 都鄙問答 二冊 新本 京都ゴ

代七匁五分

33一 天明武鑑 四冊 新本 江戸須原屋

代七匁五分

34一 蒙求理諺鈔 七冊 古本 江戸須原屋

代拾四匁

35一 和漢年表録 一冊 新本 江戸須原屋

代三匁五分

(5ウ)

寛政三亥二月

36一 和論語 十冊 新本 江戸須原屋

代拾四匁 玄峰坊様頼

同

37一 百人一首 新本 同所ゴ

代三匁五分

寛政七年卯十二月

38一 和漢節用無双袋 一冊 新本 江戸須原屋

代銀九匁 仁助殿頼

同

39一 民家分量記 五冊 新本 同所

代四匁五分

寛政八辰五月

40一 般若理趣方 一卷 京都ゴ

耕心庵様頼

代九匁 奉安置私宅

(6才)

41 観音経鈔 六冊 合卷一冊 古本

代三匁五分

寛政十二辛未正月

新本仏書

42 一 婦妙本願鈔 三冊 西要鈔 二冊

父子相迎 二冊 京都 勇左衛門殿

代金壹分 甚兵衛殿頼

寛政十二申十一月十二日

43 一 狩野栄川様御絵

月二松竹金粉二而

表具上下金蘭左右銀蘭

風袋一文字金入軸石

代金貳分拾匁 江戸靴町逸八

代

田中瀬左衛門殿世話

(6ウ)

享和二戌正月

44 一 三幅対掛物 縦もの表具

中聖王母 左牡丹

右菊 軸角

代金三分拾匁 田中立機殿

寛政九年巳九月

45 一 小目貫一具 赤銅二金二而鞍馬彫

代拾三匁 田中瀬左衛門殿

同年十二月

46 一 大目貫壹具 同人

代拾貳匁

同十一月

47 一 手鍮壹本 但シ身壹尺

柄五尺壹寸

代金壹分貳朱 三ツ沢ときや

源兵衛

(7才)

48一 鉄罈ツバ壹枚 木三光鳥彫スカシ

代金三分拾匁 上田布袋屋ウ

田中友之丞殿世話

享和元西六月十五日

49一 鉄罈ツバ壹枚

金二而稻之象眼

代金壹分貳朱

田中重郎治殿

同酉十二月

50一 壹尺八寸之身 志津三郎包紙

但し無銘

代金貳分

同人

享和二年戊三月十三日

51一 獅子彫罈ツバ壹枚

重郎治殿

代金貳兩

但し此罈ハ私方ウ替

遣候処、此度又候相調候

(7ウ)

享和二戊三月十三日

52一 彦根宗典鉄罈ツバ壹枚

代金壹兩壹分

重郎治殿

同戊正月

53一 広正之身 白鞆一腰 田中友之丞殿

代金壹兩 長壹尺七寸

同戊十二月

54一 壹尺八寸氏家脇指 壹腰

但し切羽はゞき金掛罈なし

代金三分貳朱 田中類右衛門殿

55一 無銘志津三郎 壹尺八寸脇指拵

八匁 鞆かき入代

鉦下地ウ金掛代 貳拾匁

切羽下地ウ金掛代 拾匁

(8才)

鞆かき入代壹匁 同卷代貳匁

同系代五匁

四拾六匁 享和三年亥二月十五日

ときや 源兵衛

享和三亥十一月

56一 小柄杓本 地銅赤銅金交り

鳥ヲ彫り

代金貳分拾匁

上田ト

田中友之丞殿世話

享和二戌冬

57一 鉄鑢杓ツバ枚 彦根孔明関羽張飛

彫

代金三分

田中重郎治殿

(8ウ)

享和二年戊九月廿九日

58一 鉄鑢杓枚 米沢ト三保矢四郎彫

代五匁

上州安中

重兵衛

同戊十二月四日

59一 則光刀 貳尺三寸五分 但備前物之由

代金壹兩

田中重郎治殿

文化元甲子十一月廿八日

60一 大小一通り 善光寺西後町

桜屋藤左衛門

大身貳尺三寸家守作

鑢鉄

縁頭赤銅七子打菊ヲ金銀二而彫 目貫菊

鮫切羽鍬金掛杓枚 鍬立筋

小刀肥前住近江大掾忠広 杓尺七寸

鑢鉄山水 其外大と拵同断

代金七兩貳分

(9オ)

享和二戌二月晦日

61一 赤銅金雀竹縁頭 立機殿

代金三分拾匁

寛政十一年未十一月

62一 杓尺五寸小脇指 杓腰 さめなし

鑢なし

代金壹兩貳朱

重郎治

同

63 一 鯨杓本

同人

代金貳分

(9ウ)

文化元子五月廿五日

稻荷山

64 一 堆朱印籠一

布屋喜藤治殿

代金壹兩貳分

友之丞殿世話

寛政二年戊五月

松本伊七町

65 一 山駕籠一丁

加籠屋七之丞

代金壹兩壹分

但し私宅江参拵

同三年亥八月

66 一 壹升入椀一ツ

江戸タ

代五匁八分

権三郎殿世話

寛政四年子七月十二日

67 一 仏壇宮殿造り

高サ五尺七寸

広四尺五寸

奥行貳尺三寸余

(10才)

代金三兩三分

北原村大工

塩入長蔵

寛政四年子四月

68 一 梅蒔絵印籠一

緒めのう玉

根付象毛仁田四郎

猪留刀彫

代金三分貳朱

田中重郎治

寛政五年丑十月

69 一 鎮中仏具 六寸花立一對

一尺壹寸燭台一對 香炉一器

代金壹兩拾貳匁

江戸タ

田中友之丞殿頼

(10ウ)

寛政四年子五月

70 一 唐之山水絵拾貳枚 狩野永翁筆

代金三分貳朱

田中十郎治

寛政 紙貼り

71 一 屏風骨桐六尺六折壹双縁檜木

墨ぬり

代金貳分紙貼り

塩入長蔵

72 一 屏風二折六尺骨桐縁檜墨ぬり

代貳朱

塩入長蔵

寛政八年辰

73 一 金三両三分三百七拾六文

屏風壹双仕立

内 三分貳朱 絵拾貳枚代也

貳分紙貼り

縁骨代也

張付師

山田村庄三郎

(11才)

(アキ)

(11ウ)

寛政十年午十二月

稻荷山

74 一 仙人花鳥絵 拾貳枚 春朝

代金貳分貳朱

75 一 孔明絵貳枚

代貳朱

同人

(アキ)

(12才)

(アキ)

(12ウ)

寛政十二年申十二月

伊勢

76 一 大公望絵絹地

壹幅

月儼

右礼金貳分

御師神谷太夫殿頼

享和三亥四月

77 一 銀七拾三匁五分

象牙軸

三幅之分

七分

同

78 一 銀六拾壹匁三分

掛物表具之切

色々三幅之分

同

79 一 銀三匁

金具三

たくぼく二

百三拾七匁八分

江戸丸屋彦八

田中立機殿頼

(13才)

80

右象毛軸表具之切ヲ以

常信之筆獅子虎之二幅対

月儼之筆大公望壹幅 以上三幅

文化二丑年三月表具之

表具屋稻荷山宿八日町

若林貞吉

丑正月

81 一 みす紙

四状

表具裏打紙也

代三匁

上田加賀屋々

(13ウ)

(アキ)

(14才)

(アキ)

(14ウ)

寛政五年丑正月廿五日

当村

82 一 墨椀拾人分 古物 善左衛門

代金貳分五匁

松本夕駄賃 百貳拾四文

寛政五年丑五月

83 一 一角^{ウニコウロ} 壺ツ 目方四匁七分

代金貳分壺匁九分六厘

松本葉種屋

丸山氏之世話 一文字屋清八

寛政六年寅十月

江州八日市

84 一 水鉄砲 壺挺 大岩弥三郎

代金三分五匁

手代

(15才)

右水鉄砲当所江始而参り候故

甚高直二御座候、其後外承り候二

大鉄砲代金貳分貳朱位、中鉄砲

代金貳分二而相調候由

寛政七卯十二月

二十六貫力ケ

85 一 守随大秤 壺丁

江戸御秤所

代金三分

村沢文吉殿頼

寛政九年巳四月廿九日

86 一 輪島朱膳朱椀本二壺平拾人分

食継貳ツ 同台貳枚 しゃくし式本

湯継壺ツ

代四両貳分

稻荷山中町

塩屋五右衛門

田中大右衛門殿頼

(15ウ)

寛政九年巳七月七日

上永池村刺物屋

87 一 春慶ぬり八寸拾枚

平右衛門殿

代金貳分

長高サ五寸

同

88 一 同箱膳四枚

同人

代金壺分貳朱

寛政十二申十一月四日

89 一 木具膳本二拾人分

惣檜

代金壹両貳分

壹尺五分

長五寸三分

94 一 食繼台式枚
代金壹分

同人

(16ウ)

同

90 一 同たんす 一ツ

上永池村さし物や

平右衛門殿

95 一 物居台式枚

檜

高サ七寸

代金壹分百五拾八文

幅壹尺貳寸方
春けいぬり
塩入長藏

(16才)

享和二戌十月十二日

91 一 木具膳本二拾人分

尺五分

代金壹両貳分

長五寸三分

96 一 へぎ拾枚
代八匁

同人

平右衛門殿

同

92 一 木具膳三種之台三枚

高六寸

代金拾三匁五分

平右衛門

97 一 硯箱壹ツ
代六匁

同人

同

93 一 木具膳之たんす

貳ツ

代壹分貳朱

平右衛門

98 一 火燧コタツ壹ツ

上永池村
平兵衛

代貳朱

(17才)

享和三戌十一月

99 一行燈ソト 壹ツ 平右衛門

代拾匁

同

100 一 櫃ツ 拾枚 同人

代拾式匁

101 一 式百文 同箱 善光寺新 長吉

享和三戌十一月十二日

102 一 紀州墨椀古物二十人分

代金壹両三分式朱壹匁五分

上田ウ

田中大右衛門殿頼

(17ウ)

戊年 但紀州椀入

新田町

103 一 椀箱 式ツ 桐板 長吉

代壹貫百文

酉正月

104 一 釣台 壹ツ 新田町 長吉

代拾匁

寛政十二申九月十四日

飯山 丸山清八

105 一 拾七匁 碗蓋 壹組

106 一 拾五匁 蒔絵銘々盆 十枚

十枚

107 一 拾壹匁 盃台 一

108 一 九匁 菓子盆 一

(18才)

109 一 四匁五分 墨銘々盆 十枚

五拾六匁

同申十一月八日

110 一 疊新床 拾疊 但し十一通り

掛物へ

代金三分五匁 北戸部村勘七

寛政十一年未九月廿三日

111 金薄絵銘々盆 拾枚

代金老分

墨塗り

112 湯とう 老ツ 代三匁五分

飯山丸山平助手代

清八

(18ウ)

寛政十一年未九月

113 煙粉盆 四ツ

春慶ぬり

北原村長蔵

代拾四匁

同

114 墨ぬり内赤重箱四重组外箱共

代金貳分

同人

享和二戌十月十五日

115 菓罐 老ツ

ひし屋伊助

代拾老匁貳分五り

申十一月

116 猪口 十

善光寺

代五百五拾文

伊勢町文右衛門

117 壹貫三百文 茶碗十 同人

(19才)

118 壹貫三百文 皿十 同人

119 四百文 鉢一枚 同人

120 貳百十三文 焼物吸筒 一

121 拾貳匁 銅びん 式升七合入 式百七十目
小野屋与五兵衛

享和二戌十月廿四日

122 貳貫文 蓋茶碗十九 文右衛門

善光寺伊せ町

123 一 百六拾四文 大鉢一 同人

124 一 拾六匁 あられ銚子 二ツ ひしや伊助
大門町

(19ウ)

同三亥壬正月廿三日

125 一 小たんす 引出し四ツ

代金壹分 新田町 長吉

126 一 同金具隅八枚 わらひて六ツ
錠耆口

代五百七拾式文

同十一月九日 いなり山

127 一 鍋火鉢式ツ 鍋屋五兵衛

代六匁八分

128 一 同彖 さし物屋長吉

代

享和三年亥十月十五日

129 一 食籠一荷 松代

代金式分拾匁 北原村八五郎殿頼

(20才)

文化元子二月

130 一 同外彖式ツ 代拾匁 さし物長吉

子月廿六日

131 一 面ほう 代拾式匁 桑原村かしや

同十月廿日

132 一 しなひ式本 江戸表々飯山

御飛脚頼

代拾式匁 村沢氏之世話

耆匁駄賃

同十一月十五日

133 一 檜木刀式本 江戸々飯山之

御飛脚頼

代拾匁 村沢文太殿世話

外二百七拾式文 右駄賃

同九月九日

134 一 朱ぬり広蓋一枚 飯山与八

代拾式匁

(21才)

同十二月十八日

141 一 大薬罐 壹ツ 此目壹貫五拾匁有

本八升入

寺尾村

代金三分式分_マ六_リ

薬罐屋清兵衛

北原村八五郎殿頼

文化元年子九月九日

135 一 墨ぬり食櫃一ツ 湯次一ツ

代拾式匁

飯山与八

同二年丑十月十四日

136 一 刀掛 一

北原長藏

同二丑年四月廿九日

142 一 古文二冊

但新本 京都_ウ

代三匁九分

清水勝之進頼

同十一月廿二日

137 一 手樽壹ツ

九合入

後町平右衛門

同

143 一 かなめ草一冊

但新本

同断

代六匁

代式匁三分

同十月十六日

144 一 浄土三部經 四卷

同断

内弥陀經一

十二月十二日

139 一 四匁三分

三ツ組壺

大門町

觀經一 無量寿經二

代金壹分式朱

手前二奉安置

140 一 三匁五分

火鉢一

同人

(21ウ)

文化三十二年

櫛玉モク 長式尺三寸

145 一 広蓋杓枚

幅杓尺八寸

代七匁五分

新田町

さし物長吉

同寅四月十二日

146 一 右広蓋(紀州カ)しふぬり

後町

代拾匁

理兵衛

同三月十二日

147 一 神膳三枚

方七寸五分
長三寸杓分

代六匁

平右衛門

同二月十六日

148 一 惣墨椀裏丸 式度引壺平二

古物揃 拾人分

代金三分四匁

善光寺東横町

ひだ屋喜平治

(22オ)

同

149 一 大銚子 一ツ

後町ひしや

代九匁五分

同

150 一 大鉢三枚

大門町

代貳朱五拾文

ぬのや

同

151 一 茶碗共

大門町

代七百三拾文

ぬのや

寛政十二年四月十七日

152 一 あられ小銚子一ツ

善光寺大門町

代八匁

喜多屋作助

(22ウ)

寛政十二申十一月晦日

153 一 大銚子沓ツ

小野屋与五兵衛

代拾貳匁五分

享和二戊四月十五日

154 一 金鷄目一具

源兵衛

代拾四匁

享和元申七月廿五日

155 一 瓊二十

青笹模様

筑前国伊七

代八匁

戊年

156 一 同箱式ツ

新田町
さし物屋長吉

代式百文

157 一 水之物大鉢壹ツ箱入

上田原町へ

代金壹分

友之丞殿頼

(23才)

寛政十三酉正月七日

158 一 男挟箱壹ツ

上田

代金壹分拾匁

村沢文太殿頼

寛政五丑五月廿五日

159 一 立白壹ツ

野尻新田

代金式分式百文

与右衛門

寛政三年六月

160 一 万石擣師

小諸宿

代金壹分六百七拾式文

寛政十二申十一月 古

161 一 引盃式十

善光寺大門町

代拾匁

府野屋久兵衛

(23ウ)

文化二年丑三月

162 一 六尺屏風壹双仕立 但六折

163 一 屏風骨桐仕上ケ六分縁拾墨上ぬり

寛政十二年申四月

代金式分五百文 先達而拵置

小原塩入長蔵

164 一 絵仙人花鳥春朝筆

代金式分式朱 寛政十年午十月調置

165 一 大縁墨緞子女帯壹筋

代金壹分 但し手前二有合之品

166 一 坂ひた引紙 四百八拾枚 骨しばり

みの押

167 一 みの引紙 九百六拾枚 并紙

(24才)

168 一 外袋引紙 大判 百六拾枚

169 一 前上張紙 大判 百貳拾枚

170 一 内袋引紙 白 百六拾枚

紙ベ千八百八拾枚 善光寺横町

藤屋治助殿

先達而調置

代巻貫九百六十式文

但古帳直段ゼニ百匆二付八十目也

帳紙八大方百枚百目位有。

鬼オニ無里并紙百枚二付五十八匆目アリ

骨シノベリ八厚紙宜し。其

外八并紙下直二上り宜

乍然手前有合之紙八厚

而も用よし

(24ウ)
171 一 百四拾文 打山紙貳状
繪并切之裏打

172 一 六匆 屏風金具 大門ひしや

173 一 清水紙之古帳 貳拾枚位入
てうつかへ二用

174 一 百貳拾四文 せうふ三升

但しせうふこしらへ様は、前年中

百日の中桶之中入水ニしたし

水せうふツ貳寸計も高ク入置キ

十日二壺度ツ、水取替致置候而

能灰除アケキ候而、入候水清ク澄申候

百日過候而、せうふ日二乾カガし

置候而、経師屋参候而、糊二為致

可被申候、灰取候故虫喰クワず候よし

175 一 吉利新粉 貳百五十匆 小野屋安兵衛

代九十文

(25才)

- 176 一 七拾弍文 大ふのり一 同人
 - 177 一 五拾文 かるめ墨 同人
 - 178 一 三拾弍文 絵山皮 同人
 - 179 一 六匁七分五り 生間似合紙 十五枚 同人
 - 180 一 八匁五分 色吉金箔 五拾枚 同人
- 縁切金うり

- 181 一 弍匁 色吉金箔 拾枚 松代ミのや
 - 182 一 九匁 小縁茶金らん 三百坪 ふのや
- 久兵衛

- 183 一 銀弍拾三匁三り 表具屋稲荷山 若林貞吉

- メ 銀 弍両壹分三匁八厘 拾四分八分
- 錢 弍貫九百四拾文
- 為金弍両弍分弍式朱七百八十弍文

両かへ六メ七百

(25ウ)

- 同 二丑年三月
 - 184 一 弍折之六尺屏風 壹ツ仕立
 - 185 一 同骨桐仕上ケ六分縁檜墨塗
- 代弍朱 先達而北原長蔵々調置

- 186 一 大縁小縁 先年永翁之山水
- 仕立候節之残り切用

- 187 一 絵弍枚孔明菴り二居候処

代弍朱 先達而春朝筆調

- 188 一 五百弍拾文 紙代 藤屋次助

- 189 一 弍匁五分五り 色吉金箔 拾五枚 小野屋

- 190 一 弍匁五分五り 生間似合紙 五拾 同人

(26才)

- 191 一 七拾弍文 大ふのり 壹枚 但六折二而

遣

- 192 一 弍拾三文 新粉 六拾三匁 小野屋

- 193 一 拾弍文 上軽目墨 同人

194 一 五匁八分貳りん 右仕立料 三日半人

若林貞吉

貳拾五匁三分貳りん

六百三十三文 両かへ六匁七百

為金貳分百六文

此外大小之縁銀二積り二而

大縁六匁六分六り

小縁三匁

九匁六分六り

(26ウ)

文化三年寅三月

195 一 屏風箱 老領絵六折老双入

松六分板

代銀拾三匁 さし物屋長吉

屏風等手前仕立候者、甚高直

上り候、随分下直二致候而も六折老双

貳両貳分貳両三分位二懸り申候

絵并二縁等念入候得者、四両余も

懸り申候、有合屏風張り替者
格別之事、新地二手間二而無用之事

196 一 関羽將軍掛物 一幅

画八石川邑住堀内賢治筆 号呉雪

(27才)

謝礼貳朱 表具代 五匁 貞吉

文化三寅年五月

197 一 金老分 紫掛大(桐油)とうゆ合羽老ツ代

稻荷山

198 一 同 青ひつ袖とうゆ合羽老ツ 同人

代貳朱 同人

199 一 同 赤供とうゆ合羽四ツ 同人

代金老分五匁 同人

(27ウ)

200 一 青ひつ丸とうゆ合羽 沓ッ 京都々

代拾刃 野瀬田惣八

文化元年子六月廿五日

201 一 金屏風中古物沓双

絵在原業平朝臣

代金八両式分

田中重郎治殿
田中友之丞殿々

受取

(28才)

寛政二戌年八月

202 一 孔明絵沓枚

玉山居士

遠州掛川之産

203 一 天満天神之尊影沓枚

同人

右之謝礼金沓分致候ハ、右山水者

江戸表々玄鋒院様江参り、沓年

半計も被居候絵師二御座候二付、寺二

頼候而書貴候

右式幅表具屋 山田村安藤庄三郎

表具為致置申候

文化四卯年七月

204 一 野総茗話 四冊

江戸々

但新本

代銀四匁

頼

仕立屋喜兵衛殿

(28ウ)

掛物覚

絹地

205 一 梅に鶯画 狩野深信

同探雲筆 沓幅

黄洪気絹表具風袋上下

一文字墨金蘭中縁白綸子

軸象毛

右者御家人江戸下谷住林部

善太左衛門法名義綱居士自

公儀拝領之画也 寺沢長兵衛二相譲り

被申候、右義綱ハ長兵衛之母之

兄也。今里村林部善左衛門之二男也

唐紙
206 一 獅子虎之式幅対 狩野常信
画也

(29才)

茶色洪気絹表具中縁
風袋上下一文字黄金蘭象毛
之軸 文化二年丑三月表具之

絹地
207 一 大公望之画 伊勢月僊筆 壹幅
浅黄緞子表具中縁紺地金入

風袋上下一文字黄茶色金蘭軸象
毛 文化二年丑三月表具之

唐紙
208 一 若松丁月之画 狩野永川法印筆
壹幅

絹表具外洪毛絹中縁銀蘭
風袋一文字黄金蘭軸 石

唐紙
209 一 孔明之画 玉山居士筆 一幅

絹表具中縁墨縦一文字風袋
白金蘭 朱軸

(29ウ)

唐紙
210 一 天満天神之尊像 遠州掛川産
玉山居士筆 一幅

黄綸子表具中縁黒緞子風袋
一文字白金蘭 朱軸

文化十一年戌年十月 モヨギシケ絹天地一文字
茶色金入ニテ表具致し直候

絹地
211 一 聖王母 牡丹菊 三幅対
絹表具風袋一文字金蘭軸角

212 一 関羽画 呉雪島筆 一幅
紙表具朱軸

213 一 慶字横物

文川八十八歳之筆

絹表具風袋一文字黄色金蘭

田中重郎次殿々

(30才)

唐紙

214 一 布袋画 養川法眼之筆 一幅

絹表具一文字たけやまち軸黒

但軸後角改 田中重郎次殿々

215 一 雲峯老禅師筆 一幅

紙表具此掛物ハ玄鋒院十三世禅明

大和尚々遺物二貫申候

216 一 道誓禅師筆 一幅

紙表具

217 一 長国寺千丈大和尚筆 一幅

紙表具黒軸

(30ウ)

218 一 白尾坊讚孝之画 一幅

紙表具

219 一 執其中文字 善光寺

馬禅長筆 一幅

紙表具朱軸

220 一 三社之神託 馬禅長筆 一幅

紙表具 文化十一戌年十月モヨギシケ

絹二而表具致し直候

221 一 三社之仏託 性水之筆 一幅

222 一 富字 一幅

223 一 七福神 一幅

(31才)

224 一 文宣王像 上永池村 一幅

文化十一戌年正月今里林部氏譲

225 一 高砂画 横物 一幅

226 一 諸葛孔明画 益(カ)筆 一幅

227 一 雁之画 唐人筆 一幅

若狭万治郎様御筆之由

228 一 天神尊像 一幅

文政五巳年宮崎茂兵衛殿江進

(32才)

代銀四拾匁 田中和十郎殿

法橋龍山絵一幅

234 一 玄徳孔明関羽張飛周曹操物
文化十年酉二月

耕心庵恒川禪師筆

229 一 龍之字 一幅

235 一 百寿草體書 江戸雲門筆 一幅
文化十一年戌年十月吉日

青シケ唐紙表具軸黒色

表具屋藤野井村柏屋藤助

230 一 津島天王神系 一幅
(31ウ)

同年

231 一 松平陸奥守様御書翰 一幅

236 一 猪之黒画横物 長谷川等丈筆 一幅

232 一 梅二鶯画 細河玄蕃頭様若殿様

之御筆 一幅

青色シケ唐紙表具
文政五巳年中沢弥七殿江進上

233 一 曾祢松横物 一幅

237 一 童子牛二乘墨画 ウドウ筆
同年

赤シケ紙表具 壺幅

同年
238 一 竹之墨画
赤シケ紙表具

(32ウ)

文化四年卯六月

239 一 墨花塗椀本二平壺揃古物

塗代金貳分式朱

善光寺横沢町塗物師

但し此方江参候而 五平次

但シ在所松本之人也

同月

240 一 湯継壺ツ塗 并しやくし壺本

塗代三匁五分

同十月

241 一 ぶどう色内墨吸物椀拾人前

金いつかけ

塗代七匁五分

外二金まがひ粉壺分 代銀壺匁

同十一月

242 一 さし樽 壺荷 并外糸

(33オ)

塗代金壹分

同

243 一 食籠壺荷内赤外墨紋直

塗代拾式匁

同

244 一 金まがへ粉壺分 代銀壺匁

右八さし樽并食籠之紋直

同

245 一 金まがへ粉六分 代銀六匁

同

246 一 三匁 墨椀古物金いつかけ作料

同

247 一 三匁 手樽墨塗代

同

248 一 三匁五分 菓子盆内朱外墨塗代

同

249 一 三匁 盃台内朱外墨塗代

250 一 六匁五分 古椀つくのへ代

251 一 貳匁五分 仏前茶台貳ツ 箱貳ツ
ぬり代

(33ウ)

卯十二月

252 一 壹匁 巻物之軸四本ぬり代

同

253 一 百五拾文 きをう代

同

254 一 貳拾文 金薄代

〆金壹両三分銀壹匁ト百七拾貳文

外二銭九拾文さし樽金具代

文化五年辰正月十二日

高サ三尺

255 一 かりかね燭台 貳本 古

代金壹両ト五匁 江戸小伝馬町藤木伊八

同日

256 一 かりかね鬼面火鉢 貳ツ 新

上二而さし渡壹尺五寸

高サ 壹尺八寸五分

(34才)

代金貳両ト五分 江戸同人

同日

257 一 高張提灯 貳ツ 江戸武蔵屋 新

代拾四匁 喜七

同日

258 一 青ひつ吸物椀金蒔絵箱入 古

拾人前 江戸

代銀貳拾六匁

同日

259 一 本朱金蒔絵吸物椀拾人前 古

代銀貳拾匁 箱入

古
260 一 折手本 御家流 六本

代式百文

(34ウ)

六品代金ノ四両卜拾匁式百文

261 一 右駄賃

右之六品田中和重郎殿相頼

江戸表ノ相調申候

文化五年辰四月

262 一 太平記綱目 全部六十卷

代金壹両貳朱

263 一 右駄賃

右者江戸表ノ古本二而田中和十殿

相頼調申候

文化五年辰四月六日

264 一 酒ぼうし秤壹丁 田中友之丞殿ノ

代七匁五分

(35才)

文化五年辰九月九日

265 一 硯蓋墨塗金蒔絵梅二莖蒲

代金拾四匁 一枚

和十郎殿

同日

266 一 蠟燭心切 貳本

代壹匁貳分 同人

同日

267 一 鎮中火箸 貳膳

代式匁貳分 同人

文化四年卯正月廿八日

268 一 金小柄金掛ケ唐子彫 壹本

代金壹両貳朱 同人

(35ウ)

道中記絵入 新本 ひらがな

269 一 一目玉銚 四冊

代七匁 此本文政四巳四月南原村陽泉寺写本

相頼節、礼遣シ

新本

270 一 妙術博物筌 七冊

代拾五匁

新本

271 一 急用間合即座引 一冊

天明新撰捷徑節用

代五匁

以上三品京之書物

京都仏師

文化五年辰四月六日

清水勝之進

文化四年卯八月

書物筆筒入用

272 一 桐板外側仕上ケ六分其外仕上ケ

(36才)

四分 物高サ外法式尺八寸

代七匁 横幅内法壹尺三寸八分

奥行内法壹尺壹寸

大工上永池村

273 一 六匁 作料四人 平兵衛

但し此方江入金具打候迄

274 一 三百三拾式文 てうつがへ 三口

角金具八枚

275 一 百三拾式文 同張壹口

276 一 七拾式文 同わらび手三ツ

277 一 六拾四文 戸角金具

金具代々六百八文

278 一 式百文 うるし十八匁代

三度すり

279 一 壹匁五分 ぬり作料 平兵衛

銀拾四匁五分錢八百十四文

外二大工扶持方五人分

(36ウ)

文化四年卯五月廿四日 五分

280 一 檜木春慶ぬり 八寸長 高サ式寸五分

代式分式朱 拾五枚

上永池村 平右衛門

文化五年辰二月 自宅二而

281 一 同箱 大工平兵衛

代

同年 私宅江呼

282 一 燭台之箱 大工平兵衛

代

同年 私宅江呼

283 一 鬼面火鉢之圍 大工平兵衛

代

(37才)

文化五年辰十一月二日 善光寺新田町

284 一 書物筆筒 指物屋長吉

但し惣桐春慶塗金具板張壺口

かこの目式ツ わらび手三ツ

惣高サ式尺八寸

代銀拾七匁五分

文化七年庚午二月廿五日

285 一 書物小筆筒 壺ツ

但し惣桐板春慶塗金具てうつがへ

二ツ かくさん壺ツ わらび手壺ツ

惣長サ外法壺尺五寸 幅内法八寸八分

奥行内法壺尺五分段中三段

代銀七匁五分 指物屋長吉

(37ウ)

文化六年巳正月分持入用覚

286 一 銀式拾式匁五分 水指竹籠一荷

287 一 百五拾文 中野夕野瀬田作右衛門様

右駄賃

288 一 八拾文 わらびの粉

289 一 壺匁三分 とふじ式筋 小野や

290 一 壺匁四分式り もみ巾八寸四分板三枚

291 一 百三十式文 かつぎ棒壺本

292 一 五十五文 杉と縁式本長六尺

293 一 式十四文 糸の油

294 一 式十八文

よしの紙

302 一 四匁五分

はり代三人

喜兵衛殿

295 一 六匁文

生うるし 六十五匁
西町越前や

二口^レ為金沓両ト八拾六文

右之外二飯料七匁五分十人分

紙代

296 一 三十式文

かるめ墨

巳六月

297 一 銀拾七匁

水指沓荷之金具

303 一 拾四匁

水指雨とう油沓荷之代

298 一 五十文

籠ヲ台江

後町 与右衛門
鎮釘五十本

善光寺大門町嘉忠治殿

299 一 百文

打付釘也

生うるし九匁 平兵衛

以上

(38才)

(38ウ)

300 一 式百三十式文

多び錠二口 与右衛門

文化七年未閏二月十六日甲子

田中和十郎殿

^レ銀四拾式匁式分式厘

錢沓貫四百九拾沓文

刀式尺四寸沓分 但し鉏も下より

鐔鉄阿波象眼金葵彫二扇子のすかし

301 一 銀拾匁五分

大工作料塗師共七人

金切羽鉏 但し沓枚はゞき

平兵衛殿

縁頭赤銅七子二関羽玄徳張飛三人

孔明之庵二行事

目貫金無垢籠

しそめ赤銅 鮫

脇指壹尺五寸五分丹波守吉道

鐔鉄阿波象眼金竹

金切羽鏹 但し壹枚はゞぎ

縁頭赤銅七子金玉ふち弓持武者

目貫金掛ケ十式文支

しとめ赤銅

代金拾貳兩

(39才)

文化六年巳七月十二日 但し新本也

305 一 徒然要草 七冊 江戸

代銀拾貳匁七分 天用寺様頼調

文化六年巳八月 善光寺大門町

306 一 日本歳時記 四冊 書林蔦屋伴五郎

代銀六匁五分 但し新本也

文化九年申正月

307 一 前太平記 四十一卷合卷而式十一冊

但し古本也

代銀貳拾貳匁五分 書林蔦屋伴五郎

同年同月

308 一 本朝神社考 六冊 書林同人

代銀四匁八分 但し古本

(貼紙)

書物代金 貳兩貳分貳朱

銀式百八匁六分

錢壹貫貳百文

為金六兩卜壹匁六分壹貫貳百文

外二御経代貳分壹匁五分

文化九年甲正月迄

(39ウ)

文化九年申二月 但し古本

309 一 職原抄支流 小本二冊

代七拾貳文 蔦屋伴五郎

文化九年申二月廿二日 但シ新本
310 一 経典余師 四書 大学論語
孟子中庸

溪世尊詠 全部十冊

代銀式拾式匁五分 葛屋伴五郎

文化九年申二月廿二日 但シ新本

311 一 経典余師 孝経 全一冊

代壹匁八分 葛屋伴五郎

文化九年申 但シ

312 一 古文片かな付絵入 二冊 古本

代百七拾式文 葛屋伴五郎殿

(40才)

文化十一年戌六月廿三日

313 一 倭漢歴代備考大成十二冊 古本

代七匁五分 此目四百五十目アリ

江戸ノ駄賃壹貫目ニ付
銀四匁五分ツ、程

314 一 式匁 内八分五リ

四セシ 葛屋伴五郎殿
江戸ノ駄賃四銭共ニ

文化九年申九月十八日

315 一 大極図説鈔 四冊 古本葛屋伴五郎殿

代壹匁五分 大極図説 文化十三年子十月八日

返し候 葛屋伴五郎

文化十一年戌九月廿八日

316 一 古語拾遺 一卷 古本 葛屋伴五郎殿

代七拾式文

文化十二年亥正月十二日

317 一 小学句読 四卷 古本 葛屋伴五郎殿

代三匁式分

文化十二年亥二月十四日

318 一 天文図解 五卷 古本 同人

代五匁五分

(40ウ)

文化八年未四月五日

善光寺桜小路町

319 一 弁当箱吸筒共二絵入 輪島屋理兵衛

代金壹分 文化十年酉五月六日右弁当吸筒

返し候、此代り二輪島物台式枚受取
上銀三匁渡 尺五分二内朱外墨

文化八年未五月廿六日

320 一 輪島外墨内朱重箱五重組式枚蓋

代金壹分 五寸二五寸五分さし渡シ也
桜小路町 輪島屋理兵衛

文化十年酉二月

321 一 檜玉目五十重組箱入内檜ヲ付

七寸二
七寸五分

蓋式枚箱桐板白木二而

代金壹分式朱 上永池村

刺物屋弥三右衛門

322 一 同重きしろ内朱塗

(41才)

塗代金式分

善光寺後町

塗師屋儀右衛門

文化十年癸酉七月四日

323 一 皆朱布きせ椀拾人前 親椀 さし渡四寸

式分高サ
式分四分

平さし渡四寸式分 高サ壹寸六分一り

台さし渡二三寸式分五り 高サ式寸三分式り

二之椀さし渡三寸九分八り也 高式寸

324 一 飯継式ツ 杓子式本 鉢台式枚

通ひ盆式枚

325 一 本膳二之膳共二拾人前

本膳さし渡壹尺五分 高サ三寸八分

能州輪島浅見屋

甚助出候

右代金六両也 善光寺桜小路町輪島屋

利兵衛

外二式百五拾文駄賃也

(41ウ)

文化十年西七月廿日

但しさし渡六寸

326 一 皆朱大平式拾人前

布きせ

代金式両壺分式朱也

善光寺桜小路町輪島屋利兵衛

能州輪島浅見屋甚助出候

蓋二丸之中根笹しのぶちん金彫

六寸五分二七寸

代金式分也

文化十一年戌六月廿二日

善光寺桜小路町

輪島利兵衛

能州輪島深見屋助右衛門

文化十一年戌四月十五日

327 一 錦焼物皿式拾枚

328 一 同大棗式拾コチヨラ 小棗式拾

329 一 同生盛皿式拾枚イケモリ

330 一 同蓋茶碗式拾人前

百式十物

(42ウ)

文化十一年甲戌九月廿日

332 一 吸物椀式拾人前 輪島布きせ

内皆朱十人前外ふどう色内朱

十人前

色吉金沢掛蓋若松三ツ親二

若松式ツ沈金彫

親さし渡四寸式分高サ壺寸九分

■式寸式分 蓋ふたさし渡三寸九分

高サ壺寸壺分い■り式寸壺分

右之代金壺両壺分

(42才)

代金四両也

右者田中友之丞殿御世話二而、稻荷山村

堀田太郎左衛門殿々相調申候

331 一 惣黒布きせ五重組一枚蓋一組

333 一 銘々盃 式拾人前 輪島布きせ

さし渡三寸五分高サ八分五り也

沈金彫模様山水長サ式寸色吉

金沃掛ケ皆朱

代金壹両

(43ウ)

上永池村さし物屋与四郎殿

文化十一年戌三月廿四日 本尺五分

336 一 木具膳 白木本二 檜板 式枚

代五匁 靈■杉 後町儀右衛門殿

外二黒のり代五匁

(43オ)

334 一 皆朱木台 壹ツ 輪島布きせ

高サ六寸五分 さし渡七寸

ほうつき一寸 輪島

代金壹分

(ママ 戌九) 亥 六月五日

337 一 掛物箱桐板 壹ツ

338 一 玉目重箱之ふた 壹枚

二品 作料壺人

339 一 吸筒之囲 壹ツ 弁当之囲壹ツ

二品 作料壺人

同

335 一 皆朱六角之大平 壹ツ 輪島

代金壹分

四品 代金式両三分式百文相渡

善光寺桜小路町

輪島屋利兵衛

戊九月廿日 能州輪島 少三郎

同 七月七日

340 一 式匁 葉箱壹ツ代

同 廿五日

341 一 三匁 五重組重箱外圍壹ツ

同月廿六日

342 一 壹匁五分 二人扶持料

八月廿四日

343 一 枕箱外圍壹ツ

八月廿一日

344 一 生盛皿貳ツ 淺箱 貳ツ 但し惣桐板

(44才)

蓋茶碗箱貳ツ

小皿箱壹ツ

七品

代々一貫四文

但し箱之内法皿さし渡

よりハ三分クツロギアリ

深サ内法五分クツロギアリ

同九月十六日

345 一 大平箱 貳ツ

枕箱外圍壹ツ

代々四匁五分

桐板

同十二月四日

346 一 朱膳箱 壹ツ 桐板六分仕上ケ三分五リ

内法幅壹尺壹寸貳分長サ貳尺貳寸四分

内法深サ壹尺九寸三分 画ふち幅壹寸

あご壹寸

ふた之深サ壹寸貳分

代銀貳朱

同十一月十二日

347 一 朱吸物椀箱 貳ツ 桐板

代三百文

同日

348 一 朱膳之盃 二十入箱 壹ツ

代百貳十四文

(44ウ)

文化十二年亥正月十八日

入箱

349 一 飯繼台式枚 飯繼貳ツ 木具膳貳枚入箱

内法幅壹尺壹寸貳分 深サ壹尺五寸四分

長サ内法貳尺壹寸 惣桐板

代五匁

与四郎殿

同三月十四日

350 一 桐板椀箱壺ツ

代銀貳朱

上永池大工

与四郎殿

代金壺分七百文

内九百五拾文古釜四貫八百目代り

貳百五十文つり返り

鍋屋七右衛門殿

同四月廿五日

351 一 麵類入箱五枚

代銀拾匁

蓋壺枚

内法長貳尺壺寸

横幅壺壺尺八分

深サ三寸壺分

文化十三年子年三月十九日

355 一 火事除羽織胸当腰帶

古手

花色

丸二根笹

南町組 惣次郎殿

同日

352 一 ひな箱壺ツ

代貳匁

与四郎殿

代金壺分貳朱壺匁五分

同十二年亥三月朔日

353 一 内裏雛壺対

代金壺分貳朱

松代木町

藤屋弥左衛門殿

文化十三年子年五月 仕立

356 一 染麻

五七布三疊二つり 但壺疋 代貳朱ツ、也

善光寺西横町

藤屋次郎殿

縁木綿花色

(45才)

文化十三年子三月十三日

并

354 一 九枚釜壺ツ

縁外法さし渡貳尺三寸七分

深サ壺尺壺寸

重サ五貫八百目アリ

善光寺後町

(45ウ)

文化十三年子七月朔日

357 一 六升炊鍋 壺ツ

三ガキさし渡壺尺四寸五分

深サ内法六寸三分

代七百五拾文 外二つる代六十四文 後町鍋屋七右衛門殿

文化十四年丑二月四日

358 一 物台式枚 しんだう板高サ五寸五分

さし渡耆尺五分 但し白木也

代四百文 さし物与四郎殿

文化十四年丑三月

359 一 式匁 燭台ぼんほり共 但し白木

同人

縁檜木

360 一 六匁 白木へぎ 拾式枚 板松

同人

361 一 式匁 式尺三寸二巾 耆尺八広蓋耆口

仕賃白木 同人

362 一 式匁五分 神前木具膳式枚 白木二而

同人 同人

363 一 式匁五分 取上候三ツ入箱台耆ツ 木

同人 白

364 一 式百文 神前燭台金具 清十郎殿

後町

365 一 三匁 ツキ玉目硯箱一ツ 与四郎殿

白木二而

後町

366 一 式匁五分 広蓋ツキ板代 八五郎方

中耆尺八寸 長式尺五寸

外二式匁大工弘濟

367 一 甚五郎預り 鉄びん耆ツ 耆升式合

368 一 三百文 古小銚子耆ツ 同人

子十二月

369 一 つぎ板玉目たばこ盆 四ツ

代八匁 さし物屋与四郎

越中国 片倉屋儀助殿

369 一 式八匁

368 一 三百文

367 一 甚五郎預り

366 一 式匁五分

365 一 三匁

364 一 式百文

363 一 式匁五分

362 一 式匁五分

361 一 式匁

360 一 六匁

359 一 式匁

358 一 物台式枚

文化十三年子五月

370 一 白木大弓一張 東福寺村

代金壹分五匁 同村喜兵衛殿世話

同十二月

371 一 皿十 善光寺町大門町

代五百文 藤屋

文化十四年丑十一月晦日 水式升五分入也

372 一 湯婆タンポ 赤銅ノ目アカカネメ 松代紺屋町

代金壹分 四百廿匁 葉鐘屋嘉兵衛

但し古也

幅五寸五分 長サ壹尺四寸 高サ三寸五分

(46ウ)

文政元年寅六月

373 一 水風呂釜 惣みの打立 壹ツ 此目壹貫五百匁

口さし渡八寸五分 みの廻り壹尺四寸

桶ノ中へ入廻り 三尺壹寸式分 奥行壹尺壹寸

代銀 四拾九匁 但銅百目二付

代銀三匁三分直

善光寺後町 葉鐘屋藤八殿

文政元年寅十月廿六日

374 一 葉鐘カネ 正三升入 壹ツ 此匁四百五十目

打立

代銀拾六匁六分 葉鐘屋藤八殿

同寅八月五日

375 一 陣笠壹ツ 江戸

代銀四匁五分 轟忠右衛門殿頼

同寅九月

376 一 手塩皿 十

(47才)

代貳百七拾式文

文政二年卯正月七日

377 一 紀州惣黒椀 親平煮壺拾人前

代金三分式朱 上田みなと屋七左衛門殿

文化十五寅三月

378 一 風沈フウチン 式幅分 江戸村沢貞之助殿

代銀九匁 頼

文政三卯四月廿四日

379 一 六百八文 大皿式枚 越後高田二而調

さし渡尺

同日

380 一 三百式十八文 どんぶり鉢一 同所二調

文政四巳七月七日

381 一 七匁 大平ナンキン瓦

指渡七寸

善光寺東町二而

同日

382 一 拾式匁式分五り也 ひしや長左衛門殿

三百五十匁有

カナタライ尺一寸

(47ウ)

文化十二年亥四月二日

383 一 本朝通紀 前編 五十五卷 但古本也

後編

為合本

代金式分式朱

式匁六分江戸々駄賃也

葛屋伴五郎殿

但江戸々老貫目

三匁ツ、之駄賃也

同亥二月晦日

384 一 吉水遺誓論 一卷 葛屋伴五郎殿

代百式十四文 但し古本也

同亥五月廿四日 貝原先生之作ひらかな

385 一 女大学宝箱 一冊 同人

代拾四匁式分 但し新本也

但し此女大学書八田中氏江進上致候

文化十三年 亥十二月

圓光

386 一 大師一枚記請便概聞書 三卷 新本

但シ

(48才)

代六匁五分 京東山知恩院古門前

沢田善左衛門

外二駄賃京都より老匁

文化十三年七月

但古本也

具原先生作

387 一 童子訓 三冊

ひらかな本 江戸

代銀三匁五分

文化十三年七月

但し古本也

貝原先生作

388 一 五常訓 五冊

片カナマチリ

代銀四匁

右式品江戸大門組轟忠右衛門殿頼調

文化十三年子年閏八月廿九日

真片カナ古本也

389 一 朱子家訓 三冊

代耆匁五分

蔦屋伴五郎殿

同年九月廿五日

古本

390 一 延喜式伊勢太神宮卷二冊

同人

代六拾四文

(48ウ)

文化十三年子九月廿五日

391 一 孝経 一冊

春台先生 蔦屋伴五郎

代百文

点 古文也

文化十三年六月十二日

392 一 百万遍御名号一幅 徳本上人御筆

吹上村

表具料金耆分 表具屋彦五郎

同日

393 一 利劔御名号一幅 徳本上人

長式尺耆寸三分 彦五郎殿

表具料九匁

幅七寸 是八御下村惣左衛門殿相譲り

式朱代

文化十三年子六月廿三日

394 一 慎独之二字大字并鏡九之絵合式枚

右者上州新田岩松万次郎様江今里村

内村惣兵衛殿江御出被遊候節奉願候

右御謝礼金式百疋

右之内慎独之二字軸物文化十五年

寅五月表具風袋天地一文字もよぎ

金欄大縁白茶しけ絹一寸角軸

(49才)

文化十三年子

395 一 東照大権現 一幅

右紀州根来山権僧正 当国八幡江

御出被成赤田村專照寺二御滞留候節相頼

東福寺村喜兵衛殿二頂戴仕候

右表具翌年丑四月十五日致し

惣しけ茶絹筋紺絹風袋天地一文字

金欄朱軸沢木もよぎ絹惣長五尺

幅 表具代銀拾式匁也

善光寺新田亀屋曾兵衛

同年

396 一 諸倫君端多横物 一幅

紀州根来山権僧正御筆

文化十四丁丑九月表具文風袋

天地一文字白地綿中縁緞子外縁茶

綸子朱軸 △表具屋篠野井桂屋藤助

(49ウ)

文化十四年丑九月

外縁ヒワ茶

397 一 青山常運歩 一幅 一色一文字金欄

加州大乘寺天龍老大和尚御筆 文政五年年

林部忠左衛門殿江進上

同年

398 一 十六羅漢 一幅 天地一文字

玄峰院十五世大和尚印施 キンラン

文政五年年二中 ■原十郎殿へ進上

同年

399 一 道樹老大和尚御筆表具仕改 紙表具

一文字 キンラン

以上四幅 表具師 桂屋藤助

表具屋龜屋祖兵衛

文化十五戊寅三月十五日

上京之節

402 一 本朝孝子伝 古本漢字 三卷

繪入

代銀五匁七分 書林沢田吉左衛門

同日 新本 式本

403 一 銀七匁五分 京羽二重 八冊

新本

404 一 銀三匁三分 庭訓抄 二卷

右三品於京都知恩院古門前沢田氏

宅二而調

六萬遍

400 一 御名号 壹幅 徳本上人御筆

表具惣長式尺壹寸風袋中縁

赤地錦天地一文字黄金欄外縁

紺地金欄^{カナ}金軸沢木紫

表具代金壹分也 新田町龜屋

文化十四年丁丑八月朔日 曾兵衛

(50才)

同年同月

401 一 善導師 圓光大師 二幅

境村絵師臨江齋画之画料銀

七匁五分○紺地代三匁画絹壹尺五寸

表具代拾八匁 外縁本紅綾

中縁風代紺地金欄一文字赤地

(50ウ)

文化十四丁丑年十二月

易二 春秋一 書經二 詩經二

405 一 五經 札記四 全部十一卷

林家改点 古本之上本

代銀拾八匁五分

善光寺大門町葛屋伴五郎

文化十五年寅五月

406 一 大巳貴命 掛物老幅 江戸日本橋

少彦名命 山田雲門筆

407 一 諏訪大明神 掛物老幅 同筆

408 一 田心姫命 同筆

湍津島姫命 掛物一幅 同筆

市杵嶋姫命

409 一 稻荷大明神 掛物一幅 同筆

右四幅外縁茶しけ唐紙天地

(51才)

一文字 赤地錦二朱軸 吹上村

文化十五年寅五月表具 亀屋彦五郎

三国

410 一 因縁仏神感応録 八卷 但し古本

代三百文 文化十四年六月廿六日

大門町蔦屋伴五郎殿

文政元年寅八月廿九日 ひらがな

411 一 拾遺和語灯録 七冊 まじり

古本代銀拾匁 京都智恩院古門町

浄土宗之要書也 沢田吉左衛門殿

同寅十一月ノ廿七日

412 一 江戸文晁画山水 壹枚

代六匁式分五り也 大沢愛之助殿頼

(51ウ)

文政二年卯正月廿八日

413 一 墨絵拾式枚 同人物四枚

翠溪画 今里村内村惣兵衛殿頼

江戸ノ画師ナリ

代銀三拾匁：謝礼

紙代五匁

駄賃江戸ノ

同閏四月十三日

414 一 六匁壹分 真中とうひん一ツ ひしや長左衛門

壹升入

同四月

415 一 九匁 和字撰釈集 三冊

京沢田吉左衛門殿ノ調

文政二卯十月

上永池

416 一 八寸拾貳枚

惣兵衛殿

代貳分六匁

(52才)

文政二年卯十二月

京都智恩院古門前

417 一 五匁七分

沢田吉左衛門殿

新本 公事根元集積三

418 一 八匁七分

古本

仏神感応録八冊

419 一 貳拾貳匁

新本

都名所図絵六冊

420 一 貳拾壹匁

新本

同拾遺五冊

京都相場

〆五拾七匁 為金壹両也 五十七匁也

京都ノ駄賃 目方壹貫匁二付銀五匁ツ、

松代野瀬田作右衛門殿頼相調

文政三年辰七月八日

421 一 古易断時言 四本

新本

善光寺大門町

蔦屋伴五郎殿

代銀 拾三匁五分

(紙貼)

書物代金〆 文政三年辰七月八日迄

金貳両貳分貳朱

銀四百三拾七匁九分

錢貳貫百拾六文

両かへ七貫貳百文

為金拾兩卜貳朱九分 三百拾六文

辰七月八日改

古易断時言四卷迄

(52ウ)

文政三年辰八月六日

今里村

422 一 金貳分

金欄表具かな軸

内村惣兵衛殿

祐天大僧正御自筆御名号掛物壹幅之礼

文政貳年卯三月

423 一 皆朱輪島飯繼二ツ同台式枚

代金貳分

善光寺桜小路

わ島屋利兵衛殿

文政四年巳正月

ひらかな交り写本

原田覚之丞殿頼写賞

424 一 中臣祓抄

文政四年巳四月迄 陽泉寺頼写賞 ひらがな交

425 一 厭蝕大平樂記 六冊 大坂陣之軍書也

文政三辰七月八日

善光寺横町

426 一 かや麻百疋

代貳貫八百文 外二四百文染代 藤屋佐助殿

貝沢村

庄左衛門殿

(53才)

同四年巳七月仕立

九布 五布 縁千草

同七月

427 一 銅下盆 指渡シ八寸五分 此目式百式十目 貳枚

代八匁八分

後丁葉罐屋

藤八殿

文政三辰十二月

428 一 五匁壺分五りん

右成田不動尊表具

亀や与兵衛殿

同四巳九月

429 一 五葉へぎ春慶塗 拾枚

代七匁貳分

上永池

惣兵衛殿

同四年巳十二月

五葉

430 一 松春慶ぬり木具膳貳膳

尺七分

高サ七寸長

代銀七匁

同人

(53ウ)

文政四年巳十一月

431 一 金毘羅大権現尊号一幅

各朱軸外縁

ひわ茶しけとう

432 一 猿田彦大神尊号 一幅 し天地一文字

錦

右八江戸日本橋書家山田雲門先生筆

觀山和尚之世話二而貰申候

右表具料金貳朱 善光寺後町

龜屋幸作

435 一 蓬萊山画長四尺壹寸幅壹尺九寸三分

謝礼金百疋 裏打唐紙代老奴

表具天地一文字古金襴風袋同断

萱色地中縁淺黄緞子模様定

つくし外縁茶しけ絹軸上角

壹寸惣丈六尺 幅貳尺

表具料金貳分未十一月十八日遣之

善光寺上新田龜屋幸作

文政四年巳

433 一 九コウ (皐力)筆 二幅対 代貳朱 松代二而

仁科松碩殿

頼調

表具ひわ茶しけとうし一文字

金襴軸

表具料 銀七匁五分

表具屋

龜屋幸作殿

■頼申

(54ウ)

文政八年酉二月廿九日

436 一 雛五ツ 童子上下着し調笛大鼓

小鼓たいこ 以上五人

代金壹分貳朱

松代鍛冶町美濃屋

玄之丞殿

間山領周左衛門殿頼調出

文政六年八月

434 一 蓬萊山画松竹梅鶴龜浪

日輪尊 松代絵師三村氏

(54才)

文政十二年丑五月

437 一 寒山画 狩野右京進法眼安信筆

代金壹分 仁科松碩老^ノ調

中

438 一 彭祖左右獅子画三幅対 狩野周信筆

代金貳分也 田中友之丞殿^ノ

(55才)

文政十二年丑五月 表具入用

439 一 掛物 臥竜画 龍山法橋筆 大幅一幅

440 一 江戸 雲門額筆 一幅

441 一 江戸 文晁之山水画 大幅一幅

442 一 寒山画 狩野安信筆 一幅

443 一 彭祖画 狩野周信筆 一幅

以上五幅絹表具

445 一 杲山老禪師筆 一幅

六幅

表具師 更級郡上郷山田村

安藤徳十

(55ウ)

右表具入用

丑五月六日

446 一 九匁八分 白茶広釜 壹尺四寸

447 一 貳匁五分三 浅^ギ混絹 貳尺三寸 全尺

448 一 壹匁貳分 中 打山紙 貳状

449 一 六分八^リ八 上 打山紙 壹状

450 一 壹匁貳分五 角木合八分半軸 一口

451 一 九分四^リ 真紙 貳状

452 一 拾文 大鍬 貳巾分

453 一 六十四文 安打山紙 壹状

五月六日 ウス 後町 大門町小野や与五郎

五月六日 釘屋三郎右衛門

五月六日

五月六日

五月六日

五月六日

五月六日

五月六日

454 " 壹匁六分 角八分軸 二口

455 " 貳匁四分 絹沢木 貳筋

456 " 五分五厘 茶しけ絹■ 壹枚

(56才)

457 " 四分 大鋕 一口

458 " 拾文 藍玉 貳ツ

九日 459 一 貳十八文 木綿沢木 壹わ

460 " 九分 角八分半軸 三口

べ五匁四分五 錢拾文 北原村和泉重三郎殿

五月十六日

461 一 七匁 古黄綸子ひとつとき 善光寺西町

462 子 拾八匁 古二重緞子帶壹筋 田中八百吉殿
稻荷町
べ四拾九匁貳分五厘八毛 錢八拾八文 両がへ
六貫八百

五月十六日

463 一 金壹分三匁七分五厘也 表具師作料

内貳人八外之細工致候 山田村安藤徳十殿
但し八日壹分之作料也

(56ウ)

文政十二年丑五月十六日

464 一 壹新床 拾枚 但拾壹通りかけぬい

金三分銀五匁也 壹枚代五匁ツ、

北戸部村豊屋重右衛門

同丑五月十六日

465 一 越中御座 拾枚 善光寺後町

但金七分二九枚由 釘屋源八

代金壹分壹匁六分六厘

同丑六月朔日

十枚半直

466 越中御座 拾枚 釘屋源八

代拾四匁貳分八りん

同日

467 上畳縁麻 壹枚 同人

代八匁 紺色

右染代 四百文 松代

468 并縁麻 壹匁 是先年調置候

茶

右染代 貳百文 松代

(57才)

文政五年年六月 内法さし渡八寸 幅壹寸

469 一 つるべ鉄輪 貳筋 厚サ一分半 後町

代五百文 此目三百匁 金具清十郎

同午六月十三日 但用八つるべは唐松木よし

470 一 つるべ桶唐松 口さし渡外法八寸

底さし渡外法七寸一分

桶長サ壹尺 桶子あつさ六分

代貳百六十四文 後町桶工卯平殿

同七月七日

471 一 拵つるべさわら 長サ壹尺九分

同さし渡外法八寸貳分 底さし渡外法

七寸七分 桶子厚サ六分

代 後町桶工卯平

同日

472 一 右鉄輪貳筋 内法さし渡八寸二分

中九分厚一寸壹分 此目三百拾六匁

代五百拾六文 桶具屋清十郎

(57ウ)

文政十二年丑六月十二日詔

473 一 帳筆筒壹ツ外板惣檜板引出し

三ツ付引出箱中桐板 春慶のり

横中内法壹尺五寸貳分 奥行内法

壹尺七分 高サ内法七寸五分

474 一 上之引出し横巾内法壹尺四寸五分

奥行壹尺 深サ四寸六分

同七月十七日

478 一 右鉄金具大わらび手壹ツ かの目式ツ

錠壹口 鍵式ツ

代壹貫七拾式文 後町

金具屋清十郎

475 一 下之引出し 右之方高式寸六分横巾

六寸 左之方高サ式寸六分横巾八寸

奥行何れも内法壹尺

文政十一年子九月

476 一 板錠三口鍵 相鍵共四ツ 大わらび手

式ツ 中わらび手四ツ

右代金式分詔 同八月廿八日出来 金子

相渡申候 南原村 さし物屋

利助殿

479 一 近江大掾忠広 式尺一寸刀 一腰

藤原

と力キアリ

代金式分 田中友之丞殿

右^上硯料金壹匁 白鞘代銀拾匁 松代鍛冶町

硯屋久作殿

大嶺市十郎殿頼

(58才)

文政九年午七月十二日

477 一 書物たんす壹ツ 惣桐板 仕切板三段

春けいぬり 上永池村 さし物屋

代金壹分 惣兵衛

文政十二年丑六月

480 一 脇指 一腰 長壹尺五寸 鍬金銀掛り

代金壹両壹分 田中八百吉殿

田中友之丞殿頼

(58ウ)

文政三辰年

481 一 内村氏に貰候東都ノ諸先生之

書画拾式枚屏風卷二分

米菴ヘイアツ 書 文晁フシメウ 画

敬義ケイギ 書 桐隠トウイン 画

雲室ウンシツ 画 南湖ナンコ 画

牡丹 画 雲潭 画

龜田興キデコウ 書 如亭ニョテイ 書

五山 書 寬齋サイ 書

右書画文政十二丑年山田村表具師安藤徳十殿

裏打紙致申候

482 一 翠溪スイケイ之画十二枚裏打致置 同年

(59才)

文政十三庚寅年八月

483 一 銅鉄砲水風呂釜 卷ツ 上口さし渡三寸

下横巾五寸四分 下横口迄長八寸式分

惣長サ卷尺五寸 横口五寸 立口式寸四分 ■ 口

代金卷分式朱 七月廿五日渡

後町美濃屋藤八殿

夫 八十六

さし渡

484 一 鉄あみ一枚 中三通 上坂町金具屋重内殿

十文字

代式百式十四文

高サ卷尺七寸八分 外二長高三寸六分四ツ長

485 一 水風呂桶卷ツ 真さわら 式尺五寸匁 ■

笹鍋村

代拾式匁 卷本 芝惣右衛門殿

口外法さし渡式尺八寸七分 下外法式尺三寸式分

但し桶子三枚厚手

七月廿八日 越後より引越今里村桶工

486 一 五人半 五郎兵衛殿

御作料式朱七分五りん

487 一 水風呂之蓋共 但し此板八本之桶也

たが竹 葛屋カ 同人

488 一 代百八拾四文

(59ウ)

寅八月

489 一 味噌煎候胴^よ壱ツ 桐八寸板仕上ケ八分

長仕上り壱尺六寸五分 上口さし渡外法式尺三寸

下さし渡外法式尺四寸

三所針二而ぬひ竹さが 上下二而式筋

490 一 三人

越後高田在桶工

此作料四匁五分

喜源治殿

今里村五郎兵衛殿伯父也

491 一 たが竹 式筋

葛屋善六殿

代 七拾式文

寅十月五日

492 一 釣瓶桶壱ツ 唐松長壱尺壱寸 口さし渡外

法八寸 子厚サ 桶工後町卯平殿

493 一 同鉄輪 口さし渡内法八寸 厚サ一分半

巾壱寸式分 但し壱分四迄鉄廻り一口代

五百式十四文

494 一 式之上鉄輪 古を用申候 内板さし渡八寸 巾八分五り也 本

一分半

495 一 底鉄輪壱筋 巾壱寸 厚一分半 さし渡七寸五分

内法

(60才)

貫丸壱ツ丸さし渡外法二寸 爪長三寸九分

内式分横二追へり

代四百式十四文 内古鉄輪代 四拾九文引

九百五拾文 金具屋上坂町吉左衛門殿

(以下白紙五十丁半)

(裏表紙)

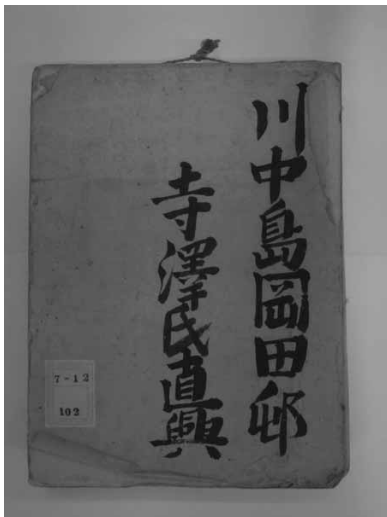


表1

元号(西暦)干支	年齢(数え)	略 歴	刀剣・武器類
宝暦1(1751)辛未	1	寺澤直興生まれる	
明和1(1764)甲申			
明和 2(1765)乙酉			
明和 3(1766)丙戌			
明和 4(1767)丁亥			
明和 5(1768)戊子			
明和 6(1769)己丑			
明和 7(1770)庚寅	20	2/29 父道孝死没、直興家督相続	1銀鐺 壹枚 金式両 2縁頭 壹具 金壹両壹分 3金掛 金壹分
この頃か			
明和 8(1771)辛卯	21		
安永1(1772)壬辰	22		
この頃か			
安永 2(1773)癸巳	23		
この頃か			
安永 3(1774)甲午	24		7鑓 壹本 金式分式朱 8鉄砲 壹挺 金三分 9脇指 一腰 金三分 鑓三枚 金式分 鯨一本 金壹分 縁 壹ツ金壹分 ノ金一両三分 10六尺棒 壹本 銀式朱
安永 4(1775)乙未	25	この頃、直興、『永代万重宝記』(寺澤家文書八二)所収の「人之身持事」、「我今日種々の大事」を執筆。	
安永 5(1776)丙申	26	直興、「金五拾両 安永五申年十二月於御会所、御内用被仰付、同日苗字帯刀御免」と、上田藩「領主松平伊賀守様」に五〇両の献金をして、見返りに苗字帯刀を許される。	13刀 壹腰 金三分式朱
安永 6(1777)丁酉	27	直興、上田藩より、「安永六西年九月庄屋格被仰付」と、庄屋格の称号を得る。	
安永 7(1778)戊戌	28		14銀大小一通 金三両三分式
安永 8(1779)己亥	29		
この頃か			
安永 9(1780)庚子	30		
天明1(1781)辛丑	31		
天明 2(1782)壬寅	32		
天明 3(1783)癸卯	33		
天明 4(1784)甲辰	34		
天明 5(1785)乙巳	35		
天明 6(1786)丙午	36		4鑓 壹枚 5会津鑓 壹枚 6縁頭 壹具(赤銅獅子の鑓と交換) 15鑓 一枚 金式分
天明 7(1787)丁未	37		
天明 8(1788)戊申	38		
寛政1(1789)己酉	39		
寛政 2(1790)庚戌	40		
この頃か			

調度・文具	書物	書画・屏風・掛物	備考
160万石搦師 金壹分六百七拾 式文 66老升入枕 五匁八分	36和論語 拾四匁 37百人一首 三匁五分		
67仏壇宮殿造り金三兩三分 68梅蒔絵印籠 金三分式朱		70唐之山水絵 金三分式朱	
159立白老ツ 金式分式百文 69仏具花立一对 金壹兩貳匁 82黒椀 金式部五匁 83一角 金式分老匁九分六厘			
		71屏風六尺六折 金式分 72屏風二折六尺 式朱	
84水鉄砲 金三分五匁			
85守随大秤 金三分	38和漢節用無双袋 九匁 39民家分量記 四匁五分		
	40般若理趣方 九匁 観音経鈔 三匁五分	41 73屏風老双仕立(72を屏風に) 金三兩三分三百七拾六分 (164絵仙人花鳥春朝筆を入手)	
86輪島朱膳他 四兩貳分 87春慶塗八寸 金式部 88春慶塗箱膳 金壹分式朱			
		74仙人花鳥絵 金式分式朱 75孔明絵 式朱	
111金薄絵の盆拾枚 金壹分 112湯とう 老ツ 三匁五分 113煙粉盆四ツ 拾四匁 114重箱四重組他箱共 金式分	42扁命本願鈔 西要鈔 父子相迎 〆金壹分		
152あられ銚子一ツ 八匁 105硯蓋老組 拾七匁 106蒔絵銘々盆拾枚 拾五匁 107蓋台一 拾老匁 108菓子盆一 九匁 109墨銘々盆十枚 四匁五分 89木具膳本 金壹兩貳分 90同たん寸金壹分百五拾八文 110畳新床 金三分五匁 116猪口十 五百五拾文 117茶碗十 老貫三百文 118皿十 老貫目三百文 119鉢一枚 四百文 120焼物吸筒 貳百十三文 121銅びん 拾式匁 161引盃式十 拾匁 153大銚子老ツ 拾式匁五分		43狩野榮川絵・表具 金式分拾匁 76大公望絵絹地 金式分 (163屏風骨桐を入手)	
158男狭箱老ツ 金壹分拾匁 95物居台 拾八匁 96へぎ 八匁 97硯箱 六匁 155瓊二十 八匁 98火燵(コタツ) 式朱 104釣台 拾匁			

元号(西暦)干支	年齢(数え)	略 歴	刀剣・武器類
寛政 3(1791)辛亥	41		
寛政 4(1792)壬子	42		
寛政 5(1793)癸丑	43		
この頃か			
寛政 6(1794)甲寅	44	直興、「秋九月吉日」に『家伝脩身録』(内題:一子相伝脩身録)を執筆	
寛政 7(1795)乙卯	45	直興、「寛政七乙卯歳八月吉日」に『齊家至言集』(内題:聖賢至言集)を執筆(前年の『家伝脩身録』とあわせて、『身脩齊家要録 二冊』(寺澤家文書一七六)。	
寛政 8(1796)丙辰	46		
寛政 9(1797)丁巳	47		45小目貫一具 拾三匁 46大目貫老具 拾貳匁 47手鍔老本 金老分式朱 48鉄鐺老枚 金三分拾匁
寛政10(1798)戊午	48		
寛政11(1799)己未	49		62小脇指老腰 金老兩式朱 63鮫老本 金式分
寛政12(1800)庚申	50		
享和1(1801)辛酉	51		49鉄鐺老枚 金老分式朱 50老尺八寸之身 金式分

調度・文具	書物	書画・屏風・掛物	備考
154金鷄目 拾四匁 91木具膳本 金壹兩貳分 92木具膳の台 金拾三匁五分 93木具膳のたんす 壹分貳朱 94台 金壹分 99行灯 拾匁 100へぎ 拾貳匁 101へぎ箱 貳百文 102紀州黒椀 金壹兩三分貳 朱壹匁五分 103椀箱 壹貫百文 115葉鐘壹ツ 拾匁貳分五厘 122蓋茶碗十九 貳貫文 123大鉢一 百六拾四文 124あられ銚子二ツ 拾六文 156篋箱貳ツ 貳百文 157大鉢壹ツ 金壹分		44(211も同)三幅対掛物 金三分拾匁	
125小たんす引出し 金壹分 126同金具・蕨手・錠 五百七拾 貳文 127鍋火鉢貳ツ 六匁八分 128同柄 129食籠一荷 金貳分拾匁		77象牙軸 銀七十三匁五分 78掛物表具之切 銀六十壹匁三分 79金具 銀三匁	
64堆朱印籠 金壹兩貳分 130柄式ツ 拾匁 134広蓋一枚 拾貳匁 135食櫃・湯次 拾貳匁		201金屏風絵在原葉平 金八兩八分	
137手樽壹ツ 六匁 138同ぬり代 六匁五分 139三ツ組蓋 四匁三分 140火鉢一 三匁五分 141大葉鐘壹ツ 金三分貳分 (ママ)六厘 145広蓋壹枚 七匁五分	142古文 三匁九分 143かなめ草 貳匁三分 144浄土三部経 金壹分貳朱	81みす紙 三匁 80表具三幅(78他) 162六尺屏風壹双仕立 ※163屏風骨桐仕上げ 金貳分五百文 ※164絵仙人花鳥春朝筆 金貳分貳朱 ※165大緑墨緞子女帯老筋 金壹分 ※166ひた引紙 ※167みの引紙 ※168外袋引紙 ※169前上張紙 ※170内袋引紙 壹貫九百六拾貳文 ※171打山紙 百四拾文 ※172屏風金具 六匁 ※173清水紙 ※174せうふ(菖蒲) 百貳十四文 ※175吉利新粉 貳百五十匁 ※176大ふのり 七拾貳文 ※177かるめ墨 五拾文 ※178絵山皮 三拾貳文 ※179生間似合紙 六匁七分五厘 ※180吉金箔五拾枚 八匁五分 ※181色吉金箔拾枚 貳匁 ※182小縁茶金らん 九匁 183屏風仕立料 銀貳拾三匁三厘 〆貳兩壹分三匁八厘 錢貳貫九百四拾 文 184貳折之六尺屏風仕立 ※185屏風骨桐仕上 貳朱 ※186大縁小縁 ※187絵式枚孔明 貳朱 ※188紙 五百貳拾文 ※189色吉金箔 拾五枚 貳匁五分五厘 ※190生間似合紙五拾 貳匁五分五厘 ※191大ふのり 七拾貳文 ※192新粉 貳拾三文 ※193上軽目墨 拾貳文 194屏風仕立料 五匁八分貳厘 〆貳拾五匁三分貳厘 六百三十三文 206(80に同じ)獅子虎之式幅対の表具 207(80に同じ)大空望76の表具	掛物覚(205～) 205梅に鶯(年月日の記載なし) 208若松丁月之画(同上) 209孔明之画(同上)202の表具

元号(西暦)干支	年齢(数え)	略 歴	刀剣・武器類
享和 2(1802)壬戌	52	直興、享和二年(一八〇二)正月吉日『歳中日記』(寺澤家文書二二八)を書き始める。文政三年(一八二〇)までの記事載せる。	53広正之身 金壹両 61縁頭 金三分拾匁 51獅子彫鐔壹枚 金貳両 52鉄鐔壹枚 金壹両壹分 58鉄鐔壹枚 五匁 59則光刀 金壹両 54脇指壹腰 金三分貳朱 55脇指拵 四十六匁 57鉄鐔壹枚 金三分
享和 3(1803)癸亥	53		56小柄巻本 金貳分拾匁
文化1(1804)甲子	54		131面ほう 拾貳匁 132しなひ貳本 拾貳匁 133檜木刀貳本 拾匁 60大小一通り 金七両貳分
文化 2(1805)乙丑	55		136刀掛一 金壹分

調度・文具	書物	書画・屏風・掛物	備考
148 惣墨椀拾入分 三分四匁 149 大銚子一ツ 九匁五分 150 大銚子三枚 貳朱五拾文 151 茶碗 七百三拾文 147 神膳三枚 六匁 146 広蓋 拾匁 197 大とうゆ合羽 貳分 198 とうゆ合羽 貳朱 199 とうゆ合羽 壹分五匁 200 とうゆ合羽 拾匁		195 屏風箱 拾參匁 196(212) 関羽將軍掛物 貳朱 同表具代 五匁	
280 檜木春慶塗 貳分貳朱 239 墨花塗椀 塗代金二分貳朱 240 湯継・しゃくし塗 三匁五分 241 吸物椀拾入前 塗代 七匁 五分 金まがひ粉 壹匁 242 さし樽・外ゑ 塗代金壹分 243 食籠 塗代 拾貳匁 244 金まがへ粉 壹匁 245 金まがへ粉 六匁 246 墨椀金いつかけ作料 三匁 247 手樽墨塗代 三匁 248 菓子盆墨塗代 三匁五分 249 杯台墨塗代 三匁 250 古椀つくのへ代 六匁五分 251 仏前茶台・箱 塗代 貳匁 五分 253 きをう代 百五拾文 254 金薄代 貳拾文 以上239～254 〆金壹兩三分 銀壹匁百七拾貳文 外ニさし樽 金具代として九拾文 272 書箆筭 七匁 ※273 同作料 六匁 ※274 蝶番 三百三拾貳文 ※275 同張 百三拾貳文 ※276 同蕨手 七拾貳文 ※277 戸角金具 六拾四文 ※278 ろし 貳百文 ※279 塗り作料 壹匁五分 〆銀拾四匁五分錢八百四文	204 野総茗話 銀四匁	252 巻物軸 塗代 壹匁	
255 かりかね燭台 壹兩五匁 256 かりかね鬼面火鉢 貳兩五分 257 高張提灯 拾四文 258 吸物椀金蒔絵箱入 貳拾六匁 259 金蒔絵吸物椀 貳拾匁 261 駄賃(255～260の六品) 264 秤 七匁五分 280 檜木箱 281 蠟燭之箱 283 鬼面火鉢之圍 265 硯箱墨塗 金拾四匁 266 蠟燭心切 壹匁貳部 267 鎮中火箸 貳匁貳分	260 折手本御家流 6本 貳百文 262 太平記綱目 金壹兩貳朱 263 同駄賃 269 一目玉鉢 七匁 270 妙術博物筭 拾五匁 271 天明新撰捷徑節用 五匁		

元号(西暦)干支	年齢(数え)	略 歴	刀剣・武器類
文化 3(1806)丙寅	56		
文化 4(1807)丁卯	57	直興、『先祖代世記』(寺澤家文書二八〇)を執筆。二冊からなり、一冊は、慶長二年(一五九七)に没した寺澤家初代の安右衛門直郷以来の系図を記した『寺澤家代々記』(文化四年正月)。もう一冊は『先祖代々過去帳』(文化四年九月下旬)である。	268小柄金掛ク唐子彫 金芯 両式朱
文化 5(1808)戊辰	58		

調度・文具	書物	書画・屏風・掛物	備考
文化六年巳正月分持入用覚 286～302 286水指竹籠 銀貳拾貳匁五分 287駄賃 百五拾文 288わらびの粉 八拾文 289とふじ 壺匁三分 290もみ 壺匁四分式厘 291かつぎ棒 百三十貳文 292杉と縁 五十五文 293ゑの油 貳拾四文 297水指の金具 銀拾七匁 298銀釘 五十文 300ゑび錠 貳百三十貳文 ノ銀四拾貳匁式分式厘 銭老 貫四百九拾壺文 301大工作料塗師共 銀拾匁五 分 302はり代 四匁五分 ノ金壺兩八拾六文 外に飯料 七匁五分 303水指雨とう油 拾四匁	305徒然要草 銀拾貳匁七分 306日本歳時記 銀六匁五分	294よしの紙 貳拾八文 295生うるし 六百文 286かゝるめ墨 三十貳文 299生うるし 百文	
284書物箆筒 銀拾七匁五分			
319弁当箱吹筒 金壺分 文化 10年返却し、代わりに輪島物台 を受け取る 320輪島塗重箱 金壺分			
	307前太平記 銀貳拾貳匁五分 308本朝神社考 銀四匁八分 309職原抄支流 七拾貳文 文化九年申正月迄の書物代金 ノ貳兩貳分式朱 銀貳百八匁六 分 銭老貫貳百文 金として、六 兩と壺匁六分老貫貳百文 310經典余師 四書 銀貳拾貳 匁五分 311經典余師 孝経 壺匁八分 312古文片かな付絵入 百七拾 貳文 315大極図説鈔 壺匁五分		
321櫻玉目五十重組箱入 金老 分式朱 322同重 塗代 金式分 323皆朱布きせ椀 324飯糰・杓子・鉢台・通ひ盆 325本膳・二の膳 ノ金六兩 外に貳百五拾匁の駄賃 326皆朱大平 金貳兩老分式朱		234玄徳孔明関羽張飛周曹操物 四十匁	

元号(西曆)干支	年齢(数え)	略 歴	刀剣・武器類
文化 6(1809)乙巳	59		
文化 7(1810)庚午	60		304大小一通り 金拾貳兩
文化 8(1811)辛未	61		
文化 9(1812)壬申	62		
文化10(1813)己酉	63		

調度・文具	書物	書画・屏風・掛物	備考
327錦焼物皿 328同大瓊 329同生盛 330同蓋茶碗 (327～330)代金四兩 331惣黒布きせ五拾組 金貳分 332吸物椀 金壹兩壹分 333銘々杯 金壹兩 334皆朱木台 金壹分 335皆朱六角の大平 金壹分 ノ金貳兩三分貳毫百文 上永池村さし物屋与四郎殿 (336～352) 336木具膳 五匁 外に黒のり代五匁 (337掛物箱→書画へ) 338玉目重箱のふた 339吸筒・弁当の囲 作料 334葉箱 貳匁 341五重組重箱・囲 三匁 342同人二扶持料 壹匁五分 343枕箱・囲 344生盛皿他 ノ一貫四文 335大平箱・枕箱 四匁五分 346朱膳箱 銀貳朱 347朱吸物椀箱 三百文 348朱膳の盃 百貳十四文	313倭漢歴代備考大成 七匁五分 314同駄賃他 貳匁 316古語拾遺 七拾貳文	210天満天神之尊像203の表具 220善光寺馬禪長筆三社之神託 224文宣王像 235百寿草体書 236猪面横物 237童子牛二乗 238竹之書画 337掛物箱	213慶字横物(年月日記載なし) 214布袋画(同上) 215雲峯老禪師筆(同上) 216道誓禪師筆(同上) 217長国寺和尚筆(同上) 218白尾坊讃孝之画(同上) 219善光寺馬禪長筆(同上) 221性水筆三社之仏託(同上) 222富字(同上) 223七福神(同上) 225高砂画(同上) 226諸葛孔明画(同上) 227雁之画(同上) 228天神尊像(同上) 229龍之字(同上) 230津島天王神系(同上) 231松平陸奥守様書翰(同上) 232梅に鶯(同上) 233曾拈松横物(同上)
349飯糰台他 五匁 350桐板椀箱 銀貳朱 351種類入箱・蓋 銀拾匁 352ひな箱 貳匁 353内裏雛壹対 金壹分貳朱	317小学句読 三匁貳分 384吉水遺誓論 百貳十四文 318天文図解 五匁五分 383本朝通紀前編 金貳分貳朱 385女大宇宝箱 拾四匁貳分		
354九枚釜 金壹分七匁百文 355火事除羽織胸当腰帶 金壹分貳朱壹匁五分 356染麻 貳朱すつ 357六升炊鍋 七百五十分	(315大権図説鈔を返す) 387童子訓 銀三匁五分 388五常訓 銀四匁 389朱子家訓 壹匁五分 390延喜式伊勢太神官卷 六拾四文 391孝経(春台点) 百文 386便概開書 六匁五分	392百万遍御名号(徳本上人筆) 表具料 金壹分 393利剣御名号(徳本上人より緩持) 表具料九匁 394慎独の二字、絵(新田岩松万次郎様) 金貳百疋 395東照大権現一幅(根来山権僧正) 396諸倫君端多横物(根来山権僧正)	
358物台 四百文 359燭台・ぼんぼり 貳匁 360白木へぎ 六匁 361広蓋 貳匁 362神前木具膳 貳匁五分 373箱台 貳匁五分 374神前燭台金具 貳百文 375ノキ玉目視箱 三匁 366広蓋 貳匁五分 367鉄瓶 五百八拾四文 368古小鏡子 三百文 369つき板玉目たばこ盆 八匁 371皿十 五百文 372湯婆 金壹分四百廿匁	410三国仏神感応録 三百文 405五経 全部 銀拾八匁五分	397青山常運歩一幅(加州大乗寺天龍老 大和尚筆) 398十六羅漢一幅(玄峰院十五世大和尚 印施) 399道樹老大和尚筆表具 400徳本上人筆御名号(392) 表具料金壹 分 401善導大師・圓光大師二幅(境村絵師 臨江齋) 画料銀七匁五分 紺地代三匁 表具代拾八匁	
373水風呂釜 銀四拾九匁 374薬籠 銀拾六匁六分 375陣笠 銀四匁五分 376手塩皿 貳百七拾貳文	402本朝孝子伝 銀五匁七分 403京羽二重 銀七匁五分 404庭訓抄 銀三匁三分 411拾遺和語灯録 銀拾匁	406大已貴命・少彦名命 掛物 407諏訪大明神 掛物 408田心姫命等 掛物 409稲荷大明神 掛物 412文晁の山水画 六匁貳分五厘	
377紀州惣黒椀 金三分貳朱 378風沬 銀九匁 379大皿貳枚 六百八文 380どんぶり鉢 三百貳十八文 414真中とう瓶 六匁壹分 416八寸拾貳枚 貳分六匁	415和字撰集 九匁 417公事根元集釈 五匁七分 418仏神観応録 八匁七分 419都名所図会 貳拾貳匁 420都名所図会拾遺 貳拾壹匁	413翠溪の墨絵拾貳枚 銀三拾匁 紙 代五匁、駄賃	

元号(西曆)干支	年齢(数之)	略 歴	刀剣・武器類
文化11(1814)甲戌	64		
文化12(1815)乙亥	65		
文化13(1816)丙子	66		
文化14(1817)丁丑	67		370白木大弓一張 金苞分五 匁
文政1(1818)戊寅	68		
文政 2(1819)己卯	69		

調度・文具	書物	書画・屏風・掛物	備考
423輪島飯糰・台 金貳分 426かや麻百疋 貳貫八百文 外に染代四百文 427銅下盆 八匁八分 429五葉へぎ春慶塗 七匁貳分 430松春慶めり木具膳 銀七匁	421古易断時言 銀拾三匁五分 書物代金 文政三年辰七月八日 迄 〆 金貳兩貳分貳朱 銀四 百三拾七匁九分 錢貳貫百拾六 文 金として拾兩と貳朱九分 三 百拾六文	422金欄表具かゝ軸 金貳分 428成田不動尊表具 五匁老分五厘	
381大平なんきん瓦 七匁 382カナタライ 拾貳匁貳分五厘	424中臣蔵抄(写本) 425 厭触大平薬記(写本)	431金毘羅大権現尊号一幅 432猿田彦大神尊号一幅 表具料金貳朱 433二幅対 表具料銀七匁五分	
469つるべ鉄輪 五百文 470つるべ桶唐松 貳百六十四 文 471つるべ 472鉄輪 五百拾六文			
		434蓬萊山画(松代絵師三村氏) 謝礼金 百疋 裏打唐紙代老匁 435同表具料 金貳分	
436雛人形 金老分貳朱			
477書物筆筒 金老分 478同 鉄金具・錠他 老貫七 拾貳文			
464畳新床 拾枚 金三分 銀 五匁 465越中御座 金老分老匁六分 六厘 466越中御座 拾四匁貳分八厘 467上疊縁麻 八匁 468縁麻 老匁 染代老匁百文 473帳筆筒 474同 上の引出し 475同 下の引出し 476同 板錠・鍵 蔵手 金貳分		437寒山画 金老分 438彭祖等 三幅対(狩野周信) 金貳分 文政十二年丑五月表具入用(439~445) 439臥龍画(龍山法橋) 表具 440雲門額筆 表具 441文晁山水画 表具 442寒山画(436) 表具 443彭祖画(437) 表具 444泉山老禅師筆 表具 右表具入用(446~460) 446白茶広釜 九匁八分 447浅黄混絹 貳匁五分三 448打山紙 老匁貳分 449打山紙 六分八厘八 450角木 老匁貳分五 451真紙 九分四厘 452大鋤 拾文 453打山紙 六十四文 454角八分軸 老匁六分 455絹沢木 貳匁四分 456茶しけ絹 五分五厘 457大鋤 四分 458藍玉 拾文 459木綿沢木 貳十八文 460角八分半軸 九分 〆五匁四分五 錢拾文 461古黄縮子 462古二重緞子帯 拾八匁 〆四拾九匁貳分五厘八毛 463右表具料 金老分三匁七分五厘 481書画拾貳枚を屏風老双 482翠溪画(413)の裏打	

元号(西暦)干支	年齢(数え)	略 歴	刀剣・武器類
文政 3(1820)庚辰	70		
文政 4(1821)辛巳	71		
文政 5(1822)壬午	72	直興、この年正月に、『農業耕作万覚帳』を執筆。 直興、息子の病死を歎き『寺澤長藏病氣始終記』(文政五壬午年 春三月下旬)を執筆。 直興、二通の「遺書録」を執筆。	
文政 6(1823)癸未	73		
文政 7(1824)甲申	74	直興、この年8月に『毎日勤行之次第書入』(寺澤家文書四六〇)を作成	
文政 8(1825)乙酉	75		
文政 9(1826)丙戌	76		
文政10(1827)丁亥	77		
文政11(1828)戊子	78		479近江大掾忠広刀 金武分 研ぎ料金老匂 白鞘代銀拾匂
文政12(1829)己丑	79		480脇指 金老両老分

調度・文具	書物	書画・屏風・掛物	備考
483銅鉄砲水風呂釜 金毘分 式朱 484鉄網 式百式十四文 485水風呂桶 拾式匁 486桶工への作料 式朱七分五 厘 487水風呂蓋 488さが竹 百八拾四文 489味噌煎胴 490同作料 四匁五分 491さが竹 七拾式文 492釣瓶桶 493同鉄輪 五百式十四文 494鉄輪 495底鉄輪 九百五拾文			

元号(西暦)干支	年齢(教文)	略 歴	刀剣・武器類
文政13 天保1(1830)	80		
天保 2(1831)	81	直興、この年、5月に『遺書 一通』(寺澤家文書五二九)を作成。直興死没	

表2

『書物目録(文化元甲子歳 春正月吉祥日)』				
	書名(『書物目録』) 写本は『韻鏡写本(1巻)』のように表記	書名(『世帯道具覚』)	冊	購入年月
1	四書[10巻]			
2	四書理諺鈔[10巻]	四書理諺鈔	10冊	子二月
3	孝経諺解[1巻]			
4	古文真宝[2巻]	古文	2冊	文化 2(1805)4月29日
5	古文頭書[5巻]	古文頭書	5冊	
6	蒙求[3巻]	蒙求	3冊	己之三月
7	蒙求理諺鈔[7巻]	蒙求理諺鈔	7冊	
8	唐詩撰[2巻]	唐詩選	2冊	
9	韻鏡[1巻]	韻鏡	全(1冊)	
10	韻鏡写本(1巻)			
11	四声字引[1巻]	四声字引	1冊	安永 8(1779)
12	続日本紀[20巻]	続日本紀		
13	東鑑[25巻]	東鑑	25冊	
14	和論語[10巻]	和論語	10冊	寛政 3(1791)2月
15	都鄙問答[2巻]	都鄙問答	2冊	寛政 2(1790)12月
16	為学玉筍[3巻]			
17	和漢年表録[1巻]	和漢年表録	1冊	
18	梅花心易指南鈔[5巻]	梅花心易	5冊	
19	公家鑑[2巻]	公家鑑	2冊	己之三月
20	天明武鑑[4巻]	天明武鑑	4冊	
21	台湾軍記[5巻]	台湾軍記	5冊	
22	大閤記[7巻]	大閤記	7冊	明和 7(1770)
23	頼朝三代記[4巻]	頼朝三代記	4冊	己之三月
24	武家軍鑑[4巻]	武家軍鑑	4冊	己之三月
25	民家分量記[5巻]	民家分量記	5冊	寛政 7(1795)12月
26	民家童蒙解[5巻]	民家童蒙解	5冊	己年
27	野總茗話[4巻]	野總茗話	4冊	文化 4(1807)7月
28	一代書用[1巻]	一代書用	全(1冊)	己正月
29	和漢無双袋(節用集)[1巻]	和漢節用無双袋	1冊	寛政 7(1795)12月
30	節用[1巻]			
31	庭訓往来[1巻]			
32	百人一首[1巻]	百人一首		寛政 3(1791)2月
33	かなめ草[1巻]	かなめ草	1冊	文化 2(1805)4月29日
34	観音経鈔[1冊]	般若理趣方	1巻	寛政 8(1796)5月
35	婦妙本願鈔[3冊]	観音経鈔	6冊合巻1冊	寛政 8(1796)5月
36	西要鈔[2冊]	婦妙本願鈔	3冊	寛政11(1799)正月
37	父子相迎[2冊]	西要鈔	2冊	寛政11(1799)正月
		父子相迎	2冊	寛政11(1799)正月
		浄土三部経	4巻	文化 2(1805)10月16日
38	万病廻春[8巻]			
39	日用食性[1冊]			
40	(鉄槌)徒然鈔[4巻]			
41	和漢名数[2巻]			
42	江戸町鑑[2冊]			
43	新編塵劫記[1冊]			
44	江戸往来[1冊]			
45	今川[1冊]			
46	小野篁歌字尽[1冊]			
47	新撰基経大全[3冊]			
48	般若心経鈔(道孝写)[1冊]			
49	釈迦尊八相略記(道孝写)[1冊]			
50	富士之筆紙(道孝写)[1冊]			
51	伊弉要集(道孝写)[3冊]			
52	落穂集(直興写)[4冊]			
53	諏方之筆紙(直興写)[1冊]			
54	野馬台詩諺解(直興写)[1冊]			
55	正信記(直興写)[1冊]			
56	太平記綱目抜書(直興写)[1冊]			
57	平公太夫名啓伝(直興写)[1冊]			
58	武田信玄公五十七箇条(直興写)[1冊]			
59	三河記(直興写)[1冊]			
60	武将伝(直興写)[1冊]			
61	本朝武勇良将伝(直興写)[1冊]			
62	銭徳論(直興写)[1冊]			

	『書物目録(文化元甲子歳 春正月 吉祥日)』			
	書名(『書物目録』) 写本は 顔鏡写本 [1巻] のように表記	書名(『世帯道具覚』)	冊	購入年月
63	諸宗日本弘通記(直興写)[1冊]			
64	女用文章(直興写)[2冊]			
65	女今川(直興写)[1冊]			
66	百人一首(直興写)[1冊]			
67	南部神道口訣鈔抜書(直興写)[1冊]			
68	藤道抜書(直興写)[1冊]			
69	藏原鈔抜書(直興写)[1冊]			
70	服忌令(直興写)[1冊]			
71	大要集補正成公之秘言(直興写)[1冊]			
72	平家物語抜書(直興写)[1冊]			
73	(高野山)通念集抜書(直興写)[1冊]			
74	(公儀)御定書(直興写)[1冊]			
75	川中嶋私記(直興写)[1冊]			
76	東方朔啓文(直興写)[1冊]			
77	彈琴上人絵詞伝(直興写)[1冊]			
78	公裁一件(直興写)[1冊]			
79	太平記綱目[60巻]	太平記綱目	全部60巻	文化 5(1808)4月
80	一目玉鉾[4冊]	一目玉鉾	4冊	文化 5(1808)4月6日
81	妙術博物筭[7冊]	妙術博物筭	7冊	文化 5(1808)4月6日
82	急用問合即座引(天明新撰節用捷徑)[1冊]	急用問合即座引(天明新撰)	4冊	文化 5(1808)4月6日
83	徒然要草[7巻5冊]	徒然要草	7冊	文化 5(1809)7月12日
84	日本歳時記[4巻]	日本歳時記	4冊	文化 6(1809)8月
85	前大平記[41巻21冊]	前大平記	41巻合巻21冊	文化 9(1812)正月
86	本朝神社考[6冊]	本朝神社考	6冊	文化 9(1812)正月
87	職言抄支流[2冊]	職原抄支流	2冊	文化 9(1812)2月
88	經典余師(大學・論語・孟子・中庸)[10冊]	經典余師四書	10冊	文化 9(1812)2月22日
89	經典余師孝經[1冊]	經典余師孝經	1冊	文化 9(1812)2月22日
90	袖玉武鑑[1冊]			
91	袖玉武鑑[1冊]			
92	韻鏡[4巻]			
93	大極図説[4巻]	大極図説鈔	4冊	文化 9(1812)9月18日
94	古文片仮名附[2巻]	古文片かゝ付絵入	2冊	文化 9(1812)
95	倭漢歴代帝王備考大成[12冊]	倭漢歴代帝王備考大成	12冊	文化11(1814)6月23日
96	古語拾遺[1巻]	古語拾遺	1巻	文化11(1814)9月28日
97	本朝通記[55巻37冊]	本朝通記	55巻	文化12(1815)4月3日
98	小学句読[4巻]	小学句読	4巻	文化12(1815)正月12日
		天文図解	5巻	文化12(1815)2月14日
99	吉水遺誓論[1巻]	吉水遺誓論	1巻	文化12(1815)2月晦日
		女大学宝箱	1冊	文化12(1815)5月24日
100	圓光大師一枚起請文便概圖書[3巻]	圓光大師一枚起請文便概圖	3巻	文化13(1816)12月
101	五常訓[5冊]	五常訓	5冊	文化13(1816)7月
102	童子訓[三冊]	童子訓	3冊	文化13(1816)7月
		朱子家訓	3冊	文化13(1816)8月29日
		延喜式伊勢大神宮巻	1冊	文化13(1816)9月25日
		孝経	1冊	文化13(1816)9月25日
103	仏神感応録[8巻4冊]	三国因縁仏神感応録	8巻	文化14(1817)6月26日
104	林家改点五経[11巻]	五経(林家改点)	11巻	文化14(1817)12月
105	本朝孝子伝[3巻]	本朝孝子伝	3巻	文化15(文政1(1818)3月15日
106	庭訓往来抄[2巻]	庭訓抄	2巻	文化15(文政1(1818)3月15日
107	文化改正京羽二重大全[8冊]	京羽二重	8冊	文化15(文政1(1818)3月15日
108	公事根元集釈[3巻]	公事根元集釈	3(巻)	文政 2(1819)12月
109	仏神感応録後集[8冊]	仏神感応録	8冊	文政 2(1819)12月
110	都名所図会[6冊]	都名所図会	6冊	文政 2(1819)12月
111	拾遺都名所図会[5冊]	同(都名所図会)	5冊	文政 2(1819)12月
112	図画和字撰集[3巻]	和字撰集	3冊	文政 2(1819)4月
113	圓光大師和語燈録[7冊]	拾遺和語燈録	7冊	文政1(1818)8月29日
114	中臣威和殿(写本)	中臣威抄		文政 4(1821)正月
115	厭蝕大平薬記(写本)[6冊]	厭蝕大平薬記	6冊	文政 4(1821)4月
116	古易断時言[4冊]	古易断時言	4本	文政 3(1820)7月8日
117	大和名所図会[7冊]			
118	本朝語圖[10巻5冊]			